

Arcserve® Backup for Windows

Arcserve® Replication Integration Guide

r17

arcserve®

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント（以下「本書」）はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品（複数の場合あり）のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、ARCserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2016 Arcserve（その関連会社および子会社を含む）。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve® Backup
- Arcserve® Unified Data Protection
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Windows
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve® Replication/High Availability

Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

<https://www.arcserve.com/support>

Arcserve サポートの利点

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有している情報ライブラリと同じものに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース (KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、実地試験済みのソリューションを見つけることができます。
- ライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブチャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバルユーザコミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポートチケットを開くことができます。オンラインでサポートチケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

目次

第 1 章: Arcserve Backup と Arcserve Replication の統合	7
概要.....	7
Arcserve Backup.....	8
Arcserve Replication.....	9
Arcserve Backup と Arcserve Replication の統合.....	10
機能および利点.....	11
リモートブランチ オフィスおよびセントラル データ センタ.....	13
統合に関する用語および定義.....	15
統合されたバックアッププロセスの動作.....	20
シナリオの作成.....	21
ジョブの作成.....	21
ジョブの実行.....	22
統合されたリストア プロセスの動作.....	23
第 2 章: Arcserve Backup と Arcserve Replication のインストールおよび設定	27
Arcserve Backup および Arcserve Replication のインストール方法.....	27
統合の環境設定.....	28
スタンドアロンの Arcserve バックアップ サーバの設定.....	29
レプリカ サーバにインストールされている Arcserve Backup サーバの環境設定-XOsoftW.....	29
RBO (リモートブランチ オフィス) の環境設定.....	30
RBO 環境設定 - 例 1.....	31
RBO 環境設定 - 例 2.....	32
RBO 環境設定 - 例 3.....	33
第 3 章: 統合されたバックアップ ジョブの実行	35
統合されたバックアップ ジョブ.....	35
Arcserve Replication シナリオの作成.....	35
Arcserve Replication シナリオの実行.....	40
バックアップ ジョブの作成および実行.....	43
第 4 章: 統合されたリストア ジョブの実行	47
統合されたリストア ジョブ.....	47
Arcserve Replication フェールオーバーを使用したリストア.....	48

Arcserve Replication データのリワインドを使用したリストア	49
Arcserve Backup を使用したリストア	50
Arcserve Replication 固有のグローバル リストア オプションの設定	51
セッション単位でリストア	52
ツリー単位でリストア	59
照会単位でリストア	61
マスタ マシンへの MS Exchange シナリオのリストア	63
マスタ マシンへの Microsoft SQL Server データベースのリストア	64
第 5 章: バックアップ ジョブとレプリケーション ジョブのモニタリング	65
統合されたジョブ モニタリング	65
Arcserve Backup を使用したジョブ ステータスのモニタリング	65
ジョブ キュー モニタリング	66
Activity Log Monitoring	67
Arcserve Replication を使用したジョブ ステータスのモニタリング	68
アラート通知	73
Arcserve Backup Alerts-XOsoftW	73
Arcserve Replication アラート	74
レポートの生成	74
Arcserve Backup レポート	75
Arcserve Replication レポート	75
第 6 章: トラブルシューティング	77
統合されたトラブルシューティング	77
エラー/警告メッセージ	78
第 7 章: 用語集	79

第 1 章 : Arcserve Backup と Arcserve Replication の統合

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要](#) (P. 7)

[Arcserve Backup](#) (P. 8)

[Arcserve Replication](#) (P. 9)

[Arcserve Backup と Arcserve Replication の統合](#) (P. 10)

[機能および利点](#) (P. 11)

[リモートブランチオフィスおよびセントラルデータセンタ](#) (P. 13)

[統合に関する用語および定義](#) (P. 15)

[統合されたバックアッププロセスの動作](#) (P. 20)

[統合されたリストアプロセスの動作](#) (P. 23)

概要

Arcserve Backup は、高性能な D2D (Disk-to-Disk, ディスクからディスク)、D2T (Disk-to-Tape, ディスクからテープ)、D2D2T (Disk-to-Disk-to-Tape, ディスクからディスクからテープ) のバックアップ、バックアップ暗号化、および統合されたアンチウイルス保護、マルチプレキシング、スナップショットバックアップとリカバリ機能を提供します。Arcserve Replication を追加すると、継続的なデータ保護、レプリケーション、および自動アプリケーションフェールオーバーなどにより、さらに機能が強化されます。2 つの製品を統合することで 24 時間 365 日対応の統合化されたリカバリ管理ソリューションとなり、時間とリソースを節約しながら、常に変化する規格 (コンプライアンス)、ビジネスの継続性、および惨事復旧などに対処できます。

Arcserve Backup

Arcserve Backup は、分散環境およびマルチプラットフォーム環境に対して、完全かつ柔軟で統合されたストレージおよび復旧管理ソリューションを提供します。このアプリケーションでは、オプションのクライアントエージェントを使用して、Windows、UNIX、および Linux が稼動しているマシンを含め、ネットワーク上のすべてのマシンのデータをバックアップおよびリストアすることができます。Arcserve Backup はまた、メディアおよびデバイス管理の機能も提供しています。

Arcserve Backup は、1 つの管理コンソールから制御を提供し、さまざまなプラットフォームや構成にわたって 1 台または複数のマシンで構成される小規模および大規模の企業環境をサポートすることができます。

Arcserve Replication

Arcserve Replication は、非同期リアルタイム レプリケーションを使用して、惨事復旧機能を提供するデータ保護ソリューションです。このホストベースのソフトウェアは、継続的なデータ レプリケーションを提供し、アプリケーションデータへの変更を発生と同時に、ローカルまたは WAN (Wide Area Network, ワイドエリア ネットワーク) にあるスタンバイ レプリカ サーバに転送します。継続的なデータ レプリケーションにより、常に最新のデータをリストアに使用できます。継続的なデータ保護は、ウイルス、ユーザエラー、またはアプリケーションエラーによるデータ破損からリカバリするためのデータのリwind技術に基づいています。

また、アプリケーション モニタリング、完全に自動化されたフェールオーバーおよびフェールバックを追加することで、データ保護機能をさらに強化することもできます。真に継続的なアプリケーションの可用性を実現するための高可用性ソリューションである Arcserve High Availability (HA) を使用することで、これらの機能を利用できます。

Arcserve High Availability は、Arcserve Replication の機能の上位機能を提供します。具体的には、Arcserve High Availability によって、実稼働マスタ サーバからセカンダリ レプリカ サーバへのクライアントの自動フェールオーバー機能 (プッシュ ボタン) が追加されます。そのためにクライアントを再設定する必要はありません。また、実稼働サーバおよびサーバで実行中のアプリケーションのステータスを自動的にモニタリングする機能も追加されます。マスタ サーバが元の状態にリストアされたら、IT 管理者は Arcserve High Availability を使用することによって、ボタンを押すだけでマスタ サーバを再開できます。データやアプリケーションの可用性を失うことなくレプリカ サーバから自動的にフェールバックできるのです。

Arcserve Backup と Arcserve Replication の統合

Arcserve Backup と Arcserve Replication を統合すると、継続的なデータ保護が実現され、保護されたデータをバックアップできるという二重の利点が得られます。この統合により、Arcserve Backup は、マスタ サーバ（実稼働サーバ）からレプリカサーバへのリアルタイムで継続的なデータ保護を提供し、Arcserve Backup は、アーカイブやコンプライアンスのために、このレプリケートされたデータをレプリカサーバから Arcserve Backup サーバにバックアップできます。レプリカサーバからバックアップを行うことで、バックアップ時間を確保する必要がなくなり、マスタサーバへの影響が最小限に抑えられます。その結果、マスタサーバはパフォーマンスを低下させずに処理を続行できます。さらに、Arcserve Backup を使用してバックアップデータをマスタサーバまたはレプリカサーバに復元できます。

機能および利点

Arcserve Backup と Arcserve Replication とを統合すると、レプリケーションと継続的な保護の機能（Arcserve Replication を使用）、およびアーカイブとコンプライアンスのためのバックアップ機能（Arcserve Backup を使用）が得られます。

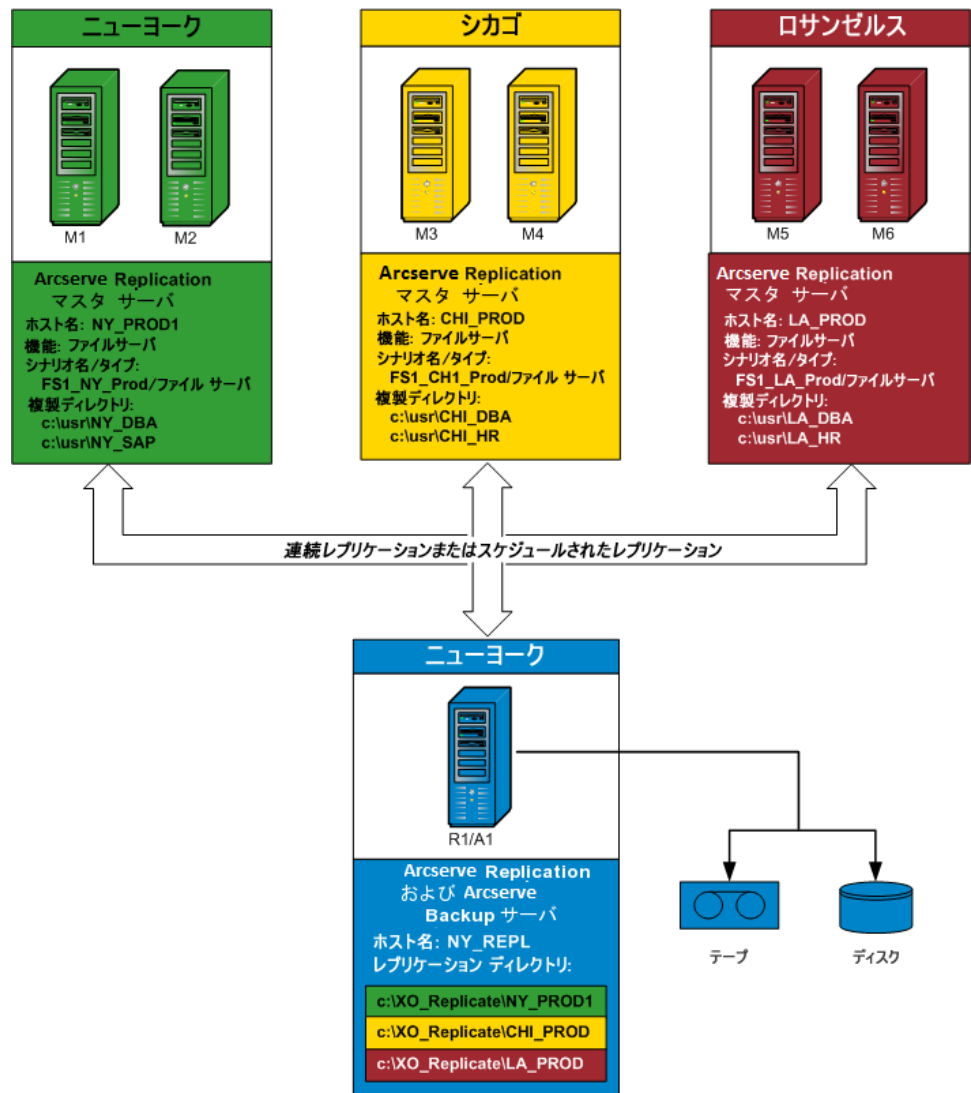
この統合で、以下の主な機能と利点が提供されます。

- 使い慣れた Arcserve Backup インターフェースを使用した、バックアップジョブの設定、スケジューリング、および管理。
- 高性能な D2D、D2T、および D2D2T バックアップおよびスナップショット。
- バックアップ暗号化および統合されたアンチウイルスによる保護。
- ビルトインデバイスとメディアの管理。
- 常に最新のデータをリストアまたはリカバリに使用できるようにする、変更ファイルおよびデータのリアルタイムで継続的なレプリケーション。
- バックアップをレプリカ サーバから行うことで、マスタ サーバへの影響を最小限に抑え、バックアップ時間の制限を排除。
- 以下のような複数のリカバリ オプション。
 - フェールオーバーを使用した Arcserve Replication からのリカバリ。別の場所にあるスタンバイ サーバへのアプリケーションのリカバリ機能、および実稼働サーバがリストアされた後のアプリケーションのプッシュボタンフェールバック。
 - データのリワインドを使用した Arcserve Replication からのリカバリ。破損データを任意の時点（リワインドポイント）にリワインドするためのリカバリ機能により、CDP（Continuous Data Protection、継続的なデータ保護）を提供。
 - Arcserve Backup を使用したリカバリ。テープまたは他の従来のバックアップメディアからのリカバリ機能。
- 複数の RBO（Remote Branch Offices、リモートブランチオフィス）から、CDC（Central Data Center、セントラルデータセンタ）へのリアルタイムのデータ統合、結果として、バックアップの一元化およびデータ統合が実現。セントラルデータセンタにあるレプリカを使用して、バックアップを一元的に実行することで、各ロケーションにおける IT サポートの必要性を削減できます。

-
- アシユアードリカバリ（回復検証）機能により、惨事復旧 レプリカサーバの詳細なテストを、無停止かつ完全自動化して実行可能。これにより、マスタサーバ、レプリケーションプロセス、または惨事に備えて実装されている自動フェールオーバー保護メカニズムに影響を与えずに、レプリカサーバのアプリケーションをリカバリできるかどうか、テストできます。

リモートブランチ オフィスおよびセントラル データ センタ

Arcserve Backup と Arcserve Replication を統合することで、CDC (Central Data Center、セントラル データ センタ) で RBO (Remote Branch Office、リモートブランチ オフィス) サーバのバックアップ レプリカを作成できます。CDCにあるバックアップ レプリカ サーバは、ブランチ オフィス サーバに対し、優れた惨事復旧機能と継続的なアプリケーション保護機能を提供します。また、複数のブランチ オフィスの一元化および統合されたバックアップを1つの拠点で行うことができます。リモートブランチ オフィスのバックアップをこのように統合することで、すべてのロケーションにおいて専門の IT サポートを行う必要性が削減されます。多くの異なる拠点における複数のサーバ、ストレージ デバイス、およびアプリケーションのインストールおよび維持には、高いコストがかかります。さらに、CDC にバックアップ レプリカ サーバを置くことで、テープの移動に関するセキュリティ上のリスクが減り、オフセット テープ メディアおよび取り扱いコストを削減できます。



統合に関する用語および定義

Arcserve Backup と Arcserve Replication 間の統合の詳細を理解する前に、各製品で使用されている用語および定義を理解しておく必要があります。

統合では以下の用語および定義が使用されます。

シナリオ

Arcserve Replication シナリオは、システムの運用を管理するための基本です。Arcserve Replication シナリオには、常に最低 1 台のマスタサーバと 1 台のレプリカサーバが含まれます。また、1 台のサーバで複数の独立したシナリオを実行できます。

シナリオとは、以下を表す仕組みです。

- 保護するアプリケーションおよびデータ
- アプリケーションおよびデータの格納場所（つまり、マスタサーバおよびソースディレクトリ）
- データがレプリケートされる場所（レプリカサーバとそれらのターゲットディレクトリ）
- 自動フェールオーバーおよびテストを行うかどうか、およびそれらの実行方法

注: Arcserve Backup は、ファイルサーバ、MS Exchange、および SQL Server のシナリオのみをサポートします。

マスタサーバ

マスタサーバは、ユーザが実際にデータの変更（読み込みおよび書き込み）を行うアクティブサーバまたは実稼動サーバです。マスタサーバで行われた変更は、リアルタイムに継続的にキャプチャされ、1 台以上の関連付けられたレプリカサーバに転送（またはレプリケート）されます。そのため、すべてのレプリカサーバには、常にマスタサーバのデータの正確なコピーが維持されます。

レプリカサーバ

レプリカサーバはパッシブサーバです。マスタサーバからレプリケートされた変更を除き、このサーバではデータを変更することができません（読み取り専用）。1 台のマスタサーバに、複数のレプリカサーバを関連付けることができます。レプリケートされたデータをマスタサーバと同期化する場合、サーバ間のデータが比較され、マスタサーバに加えられた変更のみがレプリカサーバに送信されます。その結果、WAN のトラフィックは最小限に抑えられます。

CDP (Continuous Data Protection、継続的なデータ保護)

CDP (継続的なデータ保護) は、データをリカバリするための機能です。これは、たとえば、日次または週次のバックアップまたはスナップショットでキャプチャされたある特定の以前の状態にリカバリするだけでなく、任意の時点の状態にデータをリカバリできる機能です。これにより、ウイルスが発生した場合はいつでも、原則的にまったくデータを失わずに、ウイルスが発生する直前の状態に高速リカバリできます。

フェールオーバー

フェールオーバーは、マスタ サーバ上で保護されているアプリケーションの障害を検出し、基本的にはデータも時間もまったく無駄にせずに指定されたレプリカ サーバに (自動的にまたは手動で) 切り替える機能です。マスタ サーバで障害が発生した場合、またはメンテナンスのためにシャットダウンする必要がある場合、同期化された (ローカルまたはリモートにある) レプリカが瞬時に自動的にマスタ サーバに切り替わります。

データのリワインド

データのリワインドは、ファイルを破損前の時点 (リワインドポイント) までリワインドするリカバリ方式です。この組み込みリワインド技術は、レプリカ サーバで機能するので、以前の状態への「データのリワインド」はすべてレプリカ サーバでのみ実行できます。

リワインドポイント

リワインドポイントは、イベントまたは処理をマークするリワインドログ内のチェックポイントです。格納される実際の情報には、リワインドポイントがアクティブになった場合にイベントを取り消す処理が含まれます。データリカバリでは、リワインドログ内のこれらのリワインドポイントまたはブックマークを使用して、現在のデータが以前の状態にリセットされます。

アシュアードリカバリ

アシュアードリカバリ（回復検証）では、実稼働環境やレプリケートしたデータに影響を与えることなく、実際にアプリケーションを実行することで（データの変更も含む）、惨事復旧サーバを正確にテストできます。

アシュアードリカバリを使用すると、アプリケーションサービスを起動するためにレプリケートされたデータ スナップショットを透過的かつ無停止でテストし、レプリケーションサーバ上のデータの整合性を検証するのに必要なすべての処理を実行できます。アシュアードリカバリによってこの機能が実行される際は、テスト中に実稼働システムが無防備な状態になったり、実稼働アプリケーションの可用性が阻害されたりすることはなく、テスト完了後にデータを再同期化する必要もありません。

中断モード

中断モードでは、中断されたレプリカサーバへの変更の送信が一時的に中断されます。変更はレプリケーションが再開されるまでスプールに記録され続けるので、再同期化の必要はありません。レプリケーション再開後、蓄積された変更が転送されて適用されるので、データの完全な再同期化を実行する必要はありません。

アシュアードリカバリ（回復検証）が設定されたシナリオをバックアップする場合は、アプリケーションの整合性が保たれるので、リストア後にアプリケーションをリカバリする必要はありません。ただし、中断モードを有効にして（アシュアードリカバリを設定せずに）シナリオをバックアップすると、バックアップ時のアプリケーションの状態によっては、リストア後にアプリケーションをリカバリする必要があります。

同期

同期化は、マスタ サーバのデータをレプリカ サーバのデータと同期させるプロセスです。マスタ サーバとレプリカ サーバを正確に同期させるため、2つのファイル構造の比較が行われ、マスタ サーバで欠けている内容（ファイルおよびフォルダ）、またはレプリカ サーバの内容と異なっている内容が判別されます。同期化には以下のレベルがあります。

- ファイルレベルの同期化では、変更発生時にファイル全体がレプリケートされます。この方法は小さなファイルに使用され、データセット全体がコピーされてレプリカ サーバに送信されます（レプリカ サーバにそのデータがまったく存在しない場合）。
- ブロックレベルの同期化では、変更内容が判別され、（必要な帯域幅と時間を最小限にするために）変更のみがレプリカ サーバに送信されます。これはデータベースなどの大きなデータセットのレプリケートに使用します。

レプリケーション

レプリケーションは、マスタ サーバのファイル内のバイトレベルの変更をリアルタイムにキャプチャして、ファイルおよびデータベースのまったく同じコピーを維持するプロセスです。これらのキャプチャされた変更は、非同期にレプリカ サーバに転送されます。レプリケーションでは、別のマシンにソース データが継続的に更新されるので、レプリカ サーバには常にマスタ サーバと同じデータが含まれます。使用中のファイルをリストアすることがないように、アプリケーションを終了しておく（オフラインにしておく）必要があります。

エンティティ

バックアップおよびリストアのための Arcserve Replication シナリオの詳細な精度レベルを定義します。エンティティの詳細レベルは、シナリオの種類によって異なります。

File Server エンティティ

File Server シナリオでは、1つのエンティティは、マスタサーバ上で同じボリュームに属するすべてのファイルとディレクトリを表します。

たとえば、マスタサーバではCドライブの内容が1つのエンティティを構成し、Dドライブの内容が別のエンティティを構成します。

SQL Server エンティティ

SQL Server シナリオでは、1つのエンティティはSQL データベースを表します。

たとえば、マスタサーバでは、企業Aの従業員データベースの内容が1つのエンティティを構成し、企業Bの従業員データベースの内容が別のエンティティを構成します。

MS Exchange エンティティ

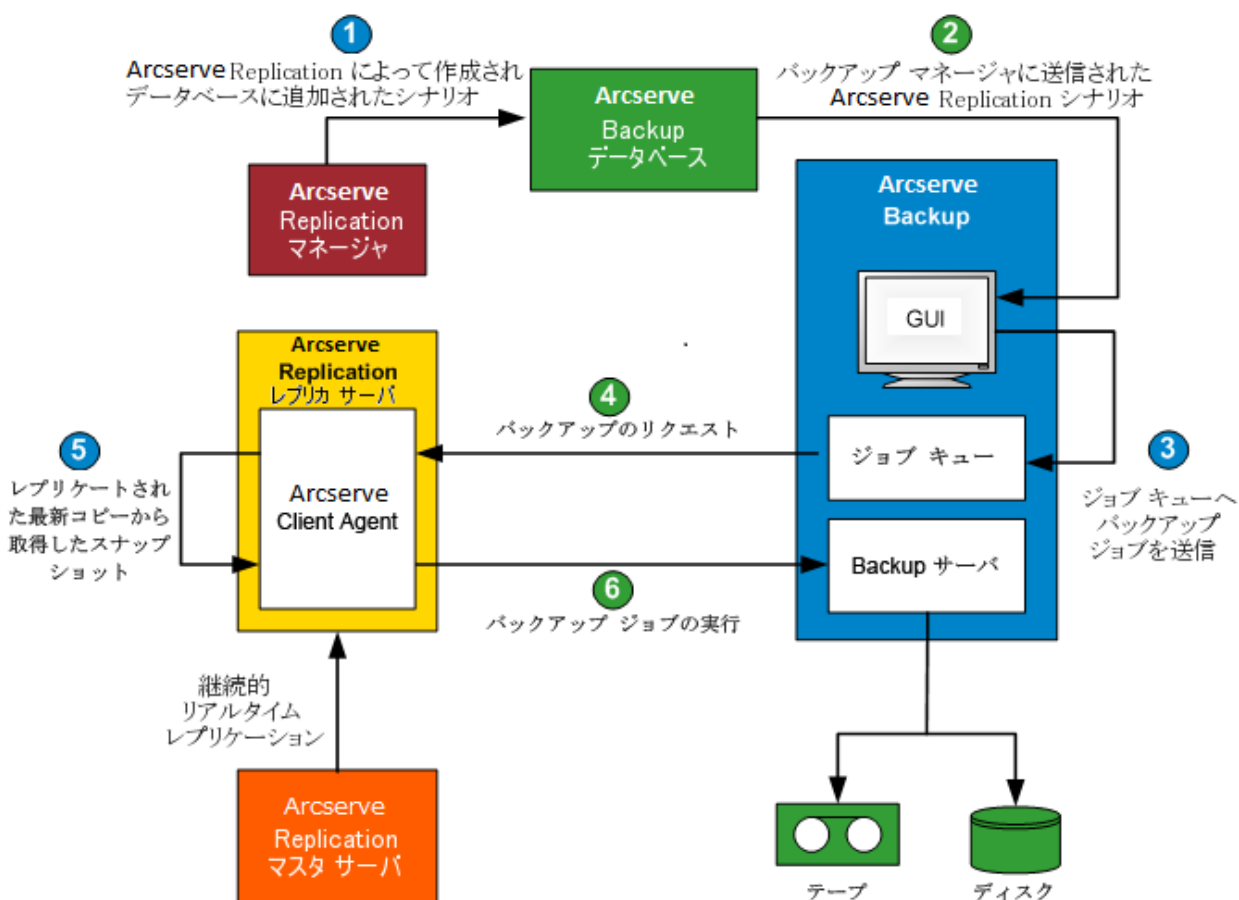
MS Exchange シナリオでは、1つのエンティティはMS Exchange ストレージグループを表します。エンティティ名は、MS Exchange ストレージグループの名前になります。

統合されたバックアッププロセスの動作

バックアッププロセスでは、シナリオに含まれるものがすべてバックアップされます。バックアップジョブにより、シナリオを構成する各エンティティのセッションが作成されます。サポートされているシナリオは、SQL Server、MS Exchange、および File Server です。

Arcserve Backup と Arcserve Replication の統合されたバックアッププロセスは、以下の3つの基本的な機能で構成されています。

- シナリオの作成
- ジョブの作成
- ジョブの実行



シナリオの作成

Arcserve Replication マネージャでシナリオを作成し、関連情報が Arcserve Backup データベースに挿入されます。既存のシナリオについては、Arcserve Replication マネージャの [ツール] メニューから [Arcserve Backup サーバの更新] オプションを使用することによって、関連情報を Arcserve Backup データベースに挿入できます。その後、Arcserve Backup がデータベースを照会してシナリオが存在することを認識し、バックアップ マネージャの GUI 経由でユーザにシナリオを提示します。Arcserve Replication シナリオは、バックアップ マネージャの [ソース] タブに一覧表示されます。バックアップ マネージャからシナリオを選択すると、対応するプロパティが表示され、選択したシナリオについての詳細情報が表示されます。これらの表示されるプロパティには、シナリオ名、シナリオの種類、およびマスタサーバとレプリカサーバに関するその他の関連情報が含まれます。

注: Arcserve Replication シナリオには、常に最低 1 台のマスタサーバと 1 台のレプリカサーバが含まれます。また、1 台のサーバで複数の独立したシナリオを実行できます。

Arcserve Backup データベースからシナリオを削除する場合は、バックアップ マネージャの GUI の [プロパティ] 画面から [オブジェクトの削除] オプションを使用します。[マシン/オブジェクトの削除] を使用すると、シナリオは Arcserve Backup データベースからのみ削除され、Arcserve Replication マネージャからは削除されません。

ジョブの作成

Arcserve Backup で、ユーザ指定のソース、デスティネーション、およびその他の一般的なバックアップ オプションの設定でバックアップジョブが作成されます。バックアップジョブを開始しようとする時、2 組のセキュリティ認証情報 (ユーザ名とパスワード) の入力を求められます。2 組の認証情報のうちの 1 組は、Arcserve Backup サーバがレプリカサーバのエージェントにアクセスするためのもので、もう 1 組は、Arcserve Backup がマスタサーバにログインしてバックアップの準備をするためのものです。必要なセキュリティ認証を入力すると、バックアップジョブがジョブキューにサブミットされ、スケジュールされた時刻に実行されます。

ジョブの実行

スケジュールされた時刻になると、Arcserve Backup がレプリカ サーバで実行中のエージェントに接続し、バックアップされたシナリオのレプリケートデータをホストしているボリュームのシャドウ コピーを作成するように Arcserve Replication に要求します。要求を受信すると、シャドウ コピーを作成するために、シナリオの継続的なリアルタイム レプリケーションが一時的に中断されます。シャドウ コピーが作成されると、レプリカ サーバでのリアルタイム レプリケーションが再開され、レプリカ サーバで実行中のエージェントがシャドウ コピーからのバックアップを実行します。Arcserve Backup サーバは、レプリカ サーバにインストールするか、別の専用サーバとしてインストールすることができます。

SQL Server シナリオと Exchange シナリオでは、バックアップが完了するとシャドウ コピーは保存され、保存シャドウ コピーの最大数に達した場合のみ削除されます。Arcserve Replication では、デフォルトで 10 個のシャドウ コピーが作成され保存されるように設定されています。10 を超えると、一番古いシャドウ コピーが一番新しいシャドウ コピーに置き換えられます。保存されるシャドウ コピーの数は、Arcserve Replication マネージャの [保存に設定するシャドウ コピー数] プロパティで変更できます。

注: For more information on setting the number of shadow copies to be kept, see the *Arcserve Replication and High Availability Administration Guide*.

ファイルサーバシナリオでは、バックアップが完了すると、シャドウ コピーが保存され、削除されることはありません。

アシュアードリカバリ（回復検証）が設定されたシナリオをバックアップする場合は、アプリケーションの整合性が保たれるので、リストア後にアプリケーションをリカバリする必要はありません。中断を有効にして（アシュアードリカバリを設定せずに）シナリオをバックアップする場合は、バックアップ時のアプリケーションの状態によっては、リストア後にアプリケーションをリカバリする必要があります。

レプリカ サーバでバックアップを実行することで、マスタ サーバでは、中断したりパフォーマンスが低下したりすることなく稼働し続けることができます。また、すべてのバックアップカタログ情報は、バックアップがマスタ サーバに実行されたかのように記録されます。そのため、データのリストアビューは、常にマスタ サーバから直接バックアップを行った場合と同じになります。Arcserve Backup を使用して、バックアップデータをマスタ サーバまたはレプリカ サーバに復元できます。

さらに、マルチストリームのバックアップジョブでは、各 Arcserve Replication シナリオは、子ジョブとしてバックアップされます。1つのノードに複数のシナリオが含まれている場合、マスタジョブによって分割され、それぞれの子ジョブによって1つのシナリオがバックアップされます。

統合されたリストアプロセスの動作

リストアプロセスでは、Arcserve Backup を使用して、マスタサーバからレプリケートされたデータをリカバリし、バックアップします。SQL Server シナリオおよび MS Exchange シナリオでは、フルシナリオのリストアのみがサポートされます。File Server シナリオでは、フルシナリオリストアまたはファイル、ディレクトリ、およびボリューム単位のリストアがサポートされます。

Arcserve Backup により、バックアップされたマシンの一覧がデータベースから取得され、リストアマネージャの GUI の [ソース] タブに表示されます。リストアマネージャからソースを選択すると、対応するプロパティも表示され、選択したソースについての詳細情報が表示されます。ソースを選択した後、リストアする場所も選択する必要があります。保存場所を選択する際は、データを元の場所にリストアする方法と別の場所にリストアする方法があります。[ファイルを元の場所にリストア] (デフォルト) を選択した場合、マスタサーバ、またはレプリカサーバのいずれの場所にリストアするのかが選択する必要があります。[ファイルを元の場所にリストア] を選択しない場合、別の場所を参照して指定する必要があります。

レプリカサーバにリストアする場合は、対応するアプリケーションが実行中でないことを必ず確認し、現在使用中のファイルのリストアを避けるようにしてください。マスタサーバにリストアするときには、Arcserve Backup Client Agent がインストールされていて稼働中であることを確認してください。

SQL Server および MS Exchange の場合、対応するアプリケーションの実行中に Arcserve Replication シナリオを元の場所にリストアすると、リストアされたファイルは一時的に拡張子 **.TMP** で作成されます。リストアジョブが正常に終了すると、既存のアクティブなファイルを上書きおよび置き換えるためにサーバの再起動を求められます。サーバが再起動すると、リストアされたファイルが元のデータベースにマージされます。対応するアプリケーションが実行中でない場合、元の場所へのリストアプロセスの際に一時的なファイルは作成されないため、サーバを再起動する必要はありません。

クラスタ環境にインストールされている SQL Server は、再起動できないので、元の場所へリストアを実行する前にアプリケーションリソースを停止する必要があります。

リストアジョブをサブミットすると、以下のオプションに従ってセキュリティ認証情報（ユーザ名とパスワード）の入力を求められます。

- [ファイルを元の場所にリストア] を選択した場合、指定したリストアオプションによっては、Arcserve Backup がマスタサーバのエージェントと通信できるように（マスタにリストアする場合）1組の認証情報を入力するか、マスタサーバとレプリカサーバの両方と通信できるように（レプリカにリストアする場合）2組の認証情報を入力する必要があります。
- [ファイルを元の場所にリストア] を選択していない場合、リストアを実行するマシンのエージェントにログインするために1組の認証情報を入力する必要があります。

必要なセキュリティ認証情報を入力すると、リストアジョブがジョブキューにサブミットされ、スケジュールされた時刻に実行されます。

スケジュールされた時刻になると、Arcserve Backup が Arcserve Replication サーバ（指定したマスタまたはレプリカ）で実行中のエージェントに接続し、データの要求を開始します。[ファイルを元の場所にリストア]を選択した場合、エージェントがデータを要求する前に、シナリオの継続的なレプリケーションが一時的に中断されます。シナリオのレプリケーションを中断することで、マスタサーバとレプリカサーバ間のデータの一貫性を保つことができます。マスタサーバのデータが、レプリカサーバにリストアされたデータとは異なっていたり、破損していることがあります。この場合、継続的なレプリケーションプロセスが中断していない場合は、レプリカサーバに新たにリストアされたデータが、マスタサーバの破損データで上書きされます。シナリオのレプリケーションを停止できない場合、リストアジョブは失敗します。必要に応じて、[グローバルオプション]を選択して、シナリオを停止できない場合でもリストアジョブを続行できます。

Arcserve Replication サーバで実行中のエージェントが Arcserve Backup に接続し、データの送信を要求すると、格納場所（テープまたはディスク）からデータが取得され、指定されたデスティネーションに送信されます。このデータの要求と送信プロセスは、バックアップからすべてのデータがリストアされるまで繰り返されます。リストアが完了すると、レプリカサーバのデータをマスタサーバにリストアすることができます。

第 2 章 : Arcserve Backup と Arcserve Replication のインストールおよび設定

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Arcserve Backup および Arcserve Replication のインストール方法](#) (P. 27)

[統合の環境設定](#) (P. 28)

[RBO \(リモートブランチオフィス\) の環境設定](#) (P. 30)

Arcserve Backup および Arcserve Replication のインストール方法

以下の Arcserve Backup および Arcserve Replication のインストール手順は、製品が統合されている場合でも変わりません。

- Arcserve Backup サーバとして指定されているサーバ上で通常の Arcserve Backup インストールを実行します。

注: Arcserve Backup のインストールの詳細については、「*Arcserve Backup 実装ガイド*」を参照してください。

- マスタ サーバおよびレプリカ サーバとして指定したサーバで、Arcserve Replication の通常のインストールを実行します。

バックアップを実行するには、以下の環境が設定されている必要があります。

- レプリカ サーバは、Arcserve Backup と Arcserve Replication の互換性マトリクスに従って設定された Windows サーバである必要があります。詳細については、製品の [Web サイト](#) を参照してください。
- マスタ サーバは、Arcserve Replication の互換性マトリクスに従って設定された Windows サーバである必要があります。

注: For more information about installing Arcserve Replication, see the *Arcserve Replication and High Availability Administration Guide*.

統合の環境設定

Arcserve Backup のインストール場所に応じて 2 つの統合セットアップを選択できます。1 つは、レプリカ サーバに Arcserve Backup サーバをインストールする設定で、もう 1 つは、Arcserve Backup サーバが別のスタンドアロンサーバとして存在している設定です。

以下の表に、Arcserve Backup と Arcserve Replication の統合に関してサポートされている環境設定バージョンを示します。

注: r15 より前の Arcserve Replication 製品名には「CA XOSoft」が使用されています。

Arcserve Backup	Arcserve Replication	総合のサポート
r16.5	r16.5、r16、r16sp1、r16sp2、r15、 r15.1、r15.2	○
r16	r16、r15、r15.1、r15.2、r12.5、 r12 SP1、r12	○
r15	r15、r12.5、r12 SP1、r12	○
r12.5	r12.5、r12 SP1、r12	○

また、マスタ サーバに Arcserve Backup Client Agent をインストールするかどうかも決定します。

マスタ サーバにクライアント エージェントをインストールする利点は以下のとおりです。

- Arcserve Backup サーバから直接マスタ サーバにリストアできます。
クライアント エージェントがマスタ サーバにインストールされていない場合、レプリカ サーバをリストアし、Arcserve Replication の「リバース レプリケーション」（レプリカからマスタ）を実行して、次にスイッチバックしたときにマスタ サーバが完全に最新の状態であるようにする必要があります。
- ベアメタル リカバリを実行できます。これにより、致命的な障害または惨事の後で、何もない状態からサーバを再構築し、サーバのアプリケーションおよびデータも併せて完全にリカバリすることが可能になります。

スタンドアロンの Arcserve バックアップ サーバの設定

このセットアップには、Arcserve Backup サーバがレプリカ サーバとは別のスタンドアロンマシンにインストールされている場合の環境設定が含まれます。この環境設定の利点は以下のとおりです。

- バックアップがレプリカ サーバの機能に影響しません。
- Arcserve Backup プロセスが別のマシン上で実行されているためレプリケーションが速くなります。
- この環境設定は、複数のリモートブランチ オフィス (RBO) に対して一元化されたバックアップを実行するための要件を満たしています。

以下の図は、この環境設定の要件を示しています。

レプリカ サーバにインストールされている Arcserve Backup サーバの環境設定 -XOsoftW

このセットアップには、Arcserve Backup サーバがレプリカ サーバと同じマシンにインストールされている場合の環境設定が含まれます。この環境設定では、アクションがレプリカ サーバに対してローカルに実行されるので、バックアップおよびリストアのジョブをより迅速に実行することができます。

以下の図は、この環境設定の要件を示しています。

RBO(リモート ブランチ オフィス)の環境設定

Arcserve Backup と Arcserve Replication を統合すると、RBO (Remote Branch Offices、リモート ブランチ オフィス) サーバから CDC (Central Data Center、セントラルデータ センタ) へデータのレプリケーションおよびバックアップができます。これらの RBO サーバは、WAN または LAN 経由で外部に接続できます。

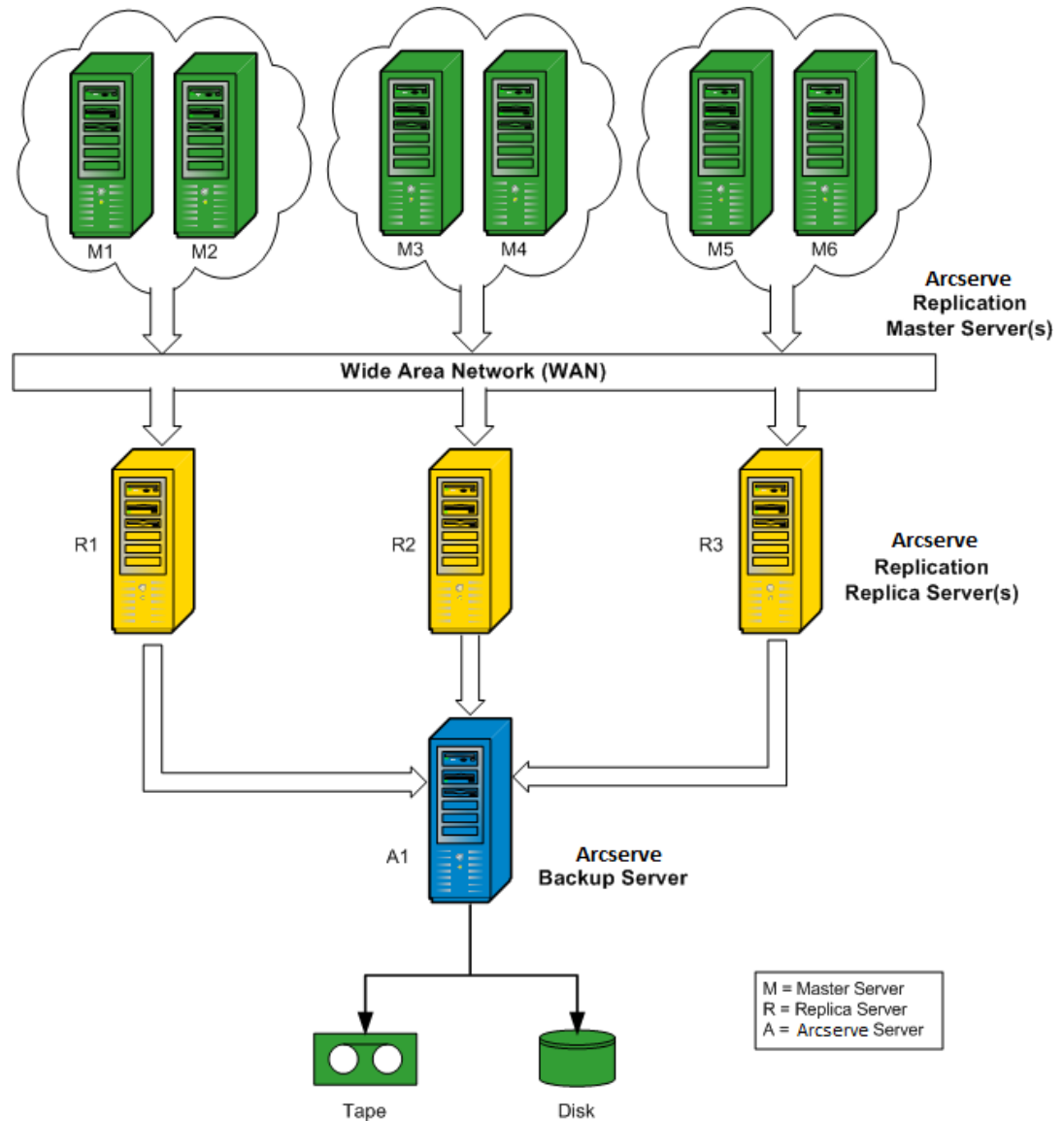
CDC を使用した RBO の利点は以下のとおりです。

- ブランチ オフィス サーバに、より良い惨事復旧と継続的なアプリケーション可用性を提供する
- 複数箇所にあるブランチオフィスのデータバックアップを、1 箇所で集中管理できる
- すべての拠点で専門の IT サポートの必要性を削減する
- 多くの異なる拠点における複数のサーバ、ストレージ デバイス、およびアプリケーションのインストールおよび維持にかかる費用を削減できる
- テープ移動に伴うセキュリティ上のリスク、オフセット テープ メディア、および取り扱いコストを削減する

リモート ブランチ オフィスは、ユーザの要件および技能に応じて、さまざまな構成のレプリケーションおよびバックアップを設定できます。以下の図は、RBO の環境設定の例をいくつか示しています。

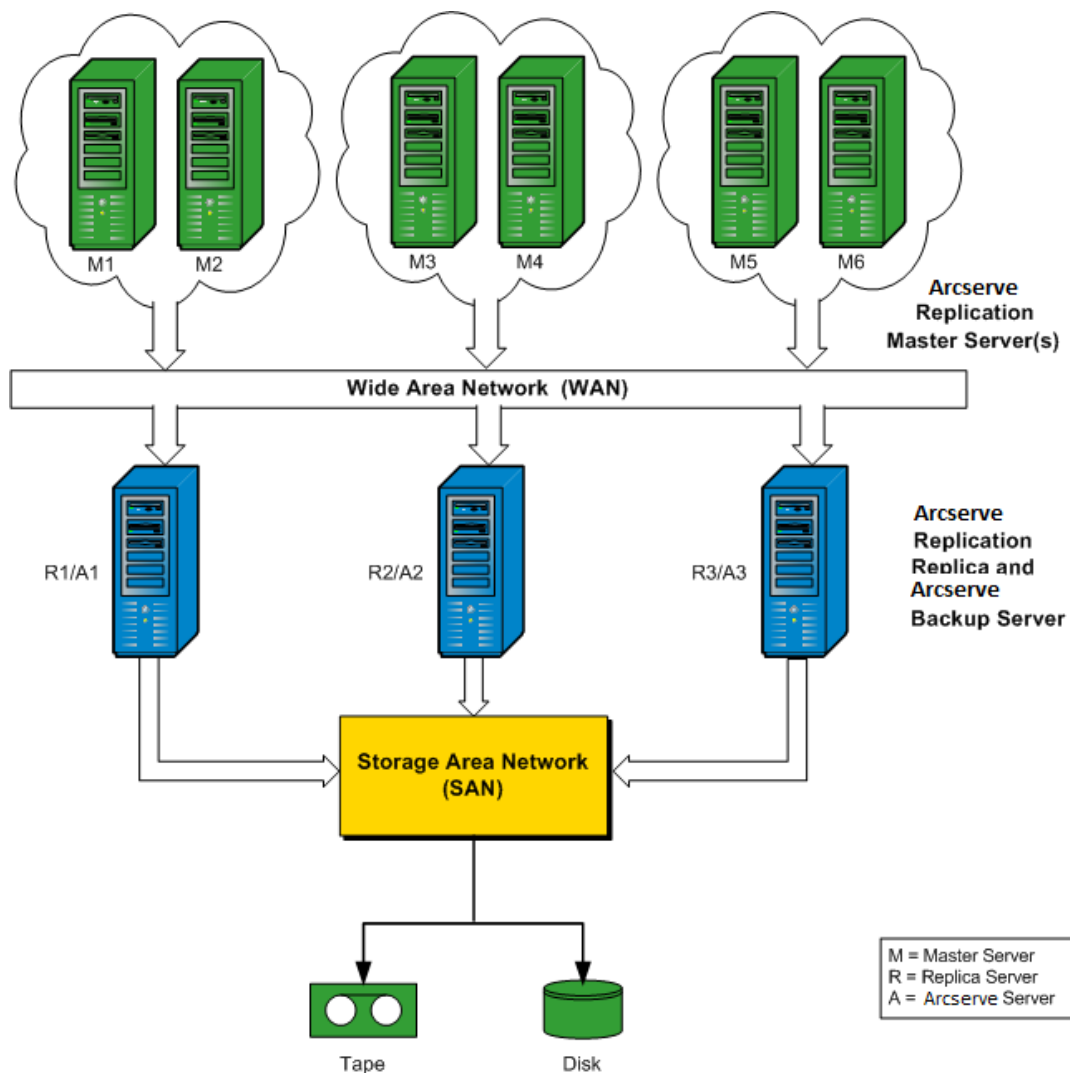
RBO 環境設定 - 例 1

この例は、複数のマスタサーバが複数のレプリカサーバにレプリケートされ、次にスタンドアロン Arcserve Backup サーバからバックアップされる RBO の構成を示しています。



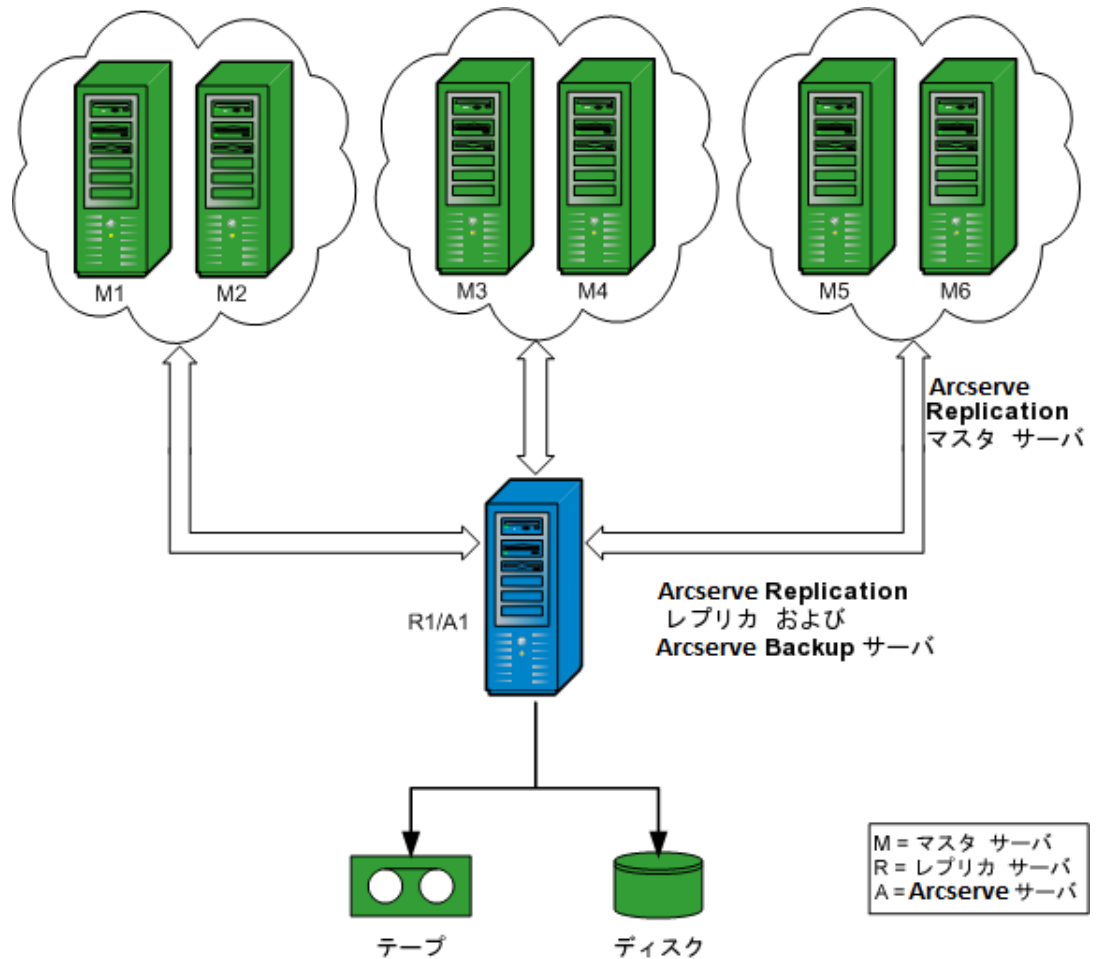
RBO 環境設定 - 例 2

この例は、複数のマスタサーバが複数のレプリカサーバに複製され、次に各レプリカサーバにインストールされている Arcserve Backup サーバから共通のライブラリにバックアップされる RBO の構成を示しています。CDC を使用したリモートブランチオフィスに関連するその他の利点に加えて、この構成では、すべての Arcserve Backup サーバのローカルバックアップの利点も提供されます。



RBO 環境設定 - 例 3

この例は、複数のマスタサーバが1台のレプリカサーバに複製され、次にレプリカサーバにインストールされている Arcserve Backup サーバからバックアップされる RBO の構成を示しています。この環境設定の欠点は、Arcserve Replication レプリカと Arcserve Backup サーバが複数サイトから複数サーバのすべてのレプリケーションおよびバックアップを実行することによりボトルネックが発生することです。



第3章：統合されたバックアップジョブの実行

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[統合されたバックアップジョブ \(P. 35\)](#)

[Arcserve Replication シナリオの作成 \(P. 35\)](#)

[Arcserve Replication シナリオの実行 \(P. 40\)](#)

[バックアップジョブの作成および実行 \(P. 43\)](#)

統合されたバックアップジョブ

Arcserve Backup と Arcserve Replication を統合すると、継続的なデータ保護が実現され、保護されたデータをバックアップできるという二重の利点を得られます。このように統合することにより、Arcserve Replication は、マスタサーバからレプリカサーバへのリアルタイムの継続的なデータ保護を提供し、Arcserve Backup は、このレプリケートされたデータをレプリカサーバから Arcserve Backup サーバにバックアップします。

統合されたバックアップを実行するプロセスには、以下の処理が含まれます。

- シナリオの作成
- シナリオの実行
- バックアップジョブの作成および実行

Arcserve Replication シナリオの作成

Arcserve Replication シナリオは、システムの運用を管理するための基本となるものです。シナリオは、保護するアプリケーションおよびデータ、アプリケーションやデータがある場所、データをレプリケートする場所、およびその他のシナリオ固有のオプションを記述する仕組みです。Arcserve Replication シナリオのバックアップを実行する前に、バックアップされるシナリオを作成する必要があります。

Arcserve Replication シナリオを作成する方法

1. Arcserve Replication の [開始] メニューまたは Arcserve Backup の [クイック スタート] メニューから Arcserve Replication マネージャを起動します。

注: レプリケーションシナリオおよびシナリオの作成オプションの詳細については、「*Arcserve Replication and High Availability 管理者ガイド*」を参照してください。

2. ツールバーの [新規] アイコンをクリックします。
[新規シナリオ ウィザードへようこそ] 画面が表示されます。
3. [新規シナリオの作成] を選択し、[次へ] をクリックして新規シナリオを作成します。
[サーバおよび製品タイプの選択] 画面が表示されます。

サーバおよび製品タイプの選択

以下で、ライセンスされたサーバタイプ、製品タイプ、および必要なタスクを選択してください。希望するオプションがリスト表示されない場合は、以下のいずれかを実行します:
適切なライセンス キーがある場合は、[キャンセル]をクリックしてウィザードを終了し、[ヘルプ] - [登録]をクリックしてください。
適切なライセンス キーがなく、取得を希望する場合は、弊社販売代理店までお問い合わせください。

サーバタイプの選択(S)

<input checked="" type="checkbox"/> ファイル サーバ	<input type="checkbox"/> フル システム
<input type="checkbox"/> Microsoft Exchange Server	<input type="checkbox"/> カスタム アプリケーション
<input type="checkbox"/> Oracle Database	<input checked="" type="checkbox"/> Arcserve D2D
<input type="checkbox"/> Microsoft SQL Server	<input type="checkbox"/> Arcserve Central Host-Based VM Backup
<input type="checkbox"/> Microsoft IIS Server	
<input type="checkbox"/> Arcserve RHA コントロール サービス	
<input type="checkbox"/> Microsoft Hyper-V	
<input type="checkbox"/> Microsoft SharePoint Server	
<input type="checkbox"/> VMware vCenter Server	
<input type="checkbox"/> Microsoft Dynamics CRM Server	

製品タイプの選択(P)

レプリケーションおよびデータリカバリ シナリオ (DR)

ハイ アベイラビリティ シナリオ (HA)

コンテンツ配布シナリオ (CD)

アシユアードリカバリ (AR) を使用した整合性テスト

統合オプション(I)

なし

Arcserve Backup

4. [Arcserve Backup オプション] を選択し、整合性テストを含めるかどうかを選択して、シナリオのバックアップ先である Arcserve Backup サーバの名前を入力します。[サーバタイプ]、[製品タイプ]、および [アシュアードリカバリ]（選択可能な場合）に適切な値を選択します。

注: Arcserve Backup はファイルサーバ、MS Exchange、および SQL Server のシナリオのみをサポートします。

5. [次へ] をクリックします。

[マスタおよびレプリカ ホスト] 画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Master and Replica Hosts' configuration window in the Arcserve Replication Wizard. The window title is 'シナリオ作成ウィザード' (Scenario Creation Wizard). The main title is 'マスタおよびレプリカ ホスト' (Master and Replica Hosts). Below the title is a note: 'マスタ (ソース) およびレプリカ (ターゲット) の両方のホストのホスト名または IP アドレスを入力してください。シナリオに關係するレプリカが複数ある場合、まず 1 つのレプリカを追加し、ウィザードの手順終了後に、[シナリオ] ペインで他のレプリカを手動で追加してください。' (Enter the host name or IP address for both the master (source) and replica (target) hosts. If there are multiple replicas related to the scenario, first add one replica, and after the wizard procedure is completed, add other replicas manually in the [Scenario] pane.)

The configuration fields are as follows:

Field	Value
シナリオ名 (Scenario Name)	FileServer
マスタ ホスト名/IP (Master Host Name/IP)	123.456.789.312
ポート (Port)	25000
レプリカ ホスト名/IP (Replica Host Name/IP)	123.456.789.654
ポート (Port)	25000

Additional options:

- アセスメント モード (Assessment Mode)
- ホスト上の CA ARCserve RHA エンジンを検証 (Verify CA ARCserve RHA Engine on Host)

The left sidebar shows the wizard steps: ようこそ (Welcome), 製品タイプ (Product Type), シナリオのセットアップ (Setup Scenario), ホスト (Hosts), エンジン検証 (Engine Verification), マスタ ディレクトリ (Master Directory), レプリカ ディレクトリ (Replica Directory), シナリオのプロパティ (Scenario Properties), ホスト プロパティ (Host Properties), シナリオの検証 (Verify Scenario), and シナリオの実行 (Execute Scenario). The 'Hosts' step is currently selected.

At the bottom, there are navigation buttons: 戻る (B) (Back), 次へ (N) (Next), 終了 (E) (Finish), and キャンセル (C) (Cancel).

-
- 作成しているシナリオのシナリオ名、およびマスタ サーバとレプリカサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。各ホスト名 フィールドの隣にある参照ボタンを使用して、対応する場所を選択することもできます。

バックアップされるシナリオが作成され、関連する情報が Arcserve Backup データベースに挿入されました。

注:既存のシナリオでは、Arcserve Backup データベースの関連情報を更新できます。これは、Arcserve Replication マネージャの [ツール] メニューの [Arcserve Backup サーバの更新] オプションを使用して行います。

- [次へ] をクリックします。

注:File Server または Microsoft Exchange Server をシナリオの種類として選択している場合は、他の Arcserve Replication シナリオの作成プロセスと同じ要領で作成を続けます。シナリオ作成の詳細な手順については、「*CA ARCserve Replication/High Availability 管理者ガイド*」を参照してください。

SQL Server をシナリオの種類として選択している場合は、[マスタ環境設定] 画面が表示されます。

[マスタ環境設定]画面には、マスタ ホストのすべての SQL Server データベース、および [選択したルート ディレクトリにある新規データベースをレプリケート] オプションのチェック ボックスが表示されます。

このオプションを選択した場合、シナリオ作成後に SQL Server ルートディレクトリで新しいデータベースを作成すると、Arcserve Replication により自動的に新しいデータベースがレプリカ サーバにレプリケートされます。ただし、新たに作成されたデータベースは Arcserve Backup データベースには含まれていないので、Arcserve Backup ではバックアップされません。新しいデータベースをバックアップするには、Arcserve Replication 自動検出機能を実行してシナリオを変更する必要があります。これにより、新しいデータベースが認識され、Arcserve Backup データベースに含まれます。

注:Arcserve Replication の自動検出機能では、(ローカルまたはネットワーク上に存在する) データベースまたはメールサーバのすべてのデータベース オブジェクト、関連ファイル、およびディレクトリが自動的に検出されます。自動検出機能の詳細な手順については、「*CA ARCserve Replication/High Availability 管理者ガイド*」を参照してください。

- シナリオを正しく設定した後、[次へ] をクリックして、他の Arcserve Replication シナリオの作成プロセスと同じ要領でシナリオの作成を続けます。

注: シナリオ作成の詳細な手順については、「*CA ARCserve Replication/High Availability 管理者ガイド*」を参照してください。

重要: シナリオが Arcserve Backup に追加された後でマスタ サーバに以下の変更を加えた場合、それらの変更が Arcserve Backup によって確実に認識されるようにするため、追加の手順を実行する必要があります。

- Microsoft SQL Server マスタ サーバへの新しいデータベースの追加
- Microsoft Exchange Server マスタ サーバへの新しいストレージグループの追加

マスタ サーバを変更した後

- 実行中のシナリオを停止します。
- [自動検出] を選択して保存します。
- シナリオを再開します。

新しいデータベースまたはストレージグループが Arcserve Backup マネージャに表示されます。

Arcserve Replication シナリオの実行

Arcserve Replication では、ユーザ定義シナリオのコンテキスト内でバックアップが作成および維持されます。Arcserve Replication シナリオをバックアップする前に、シナリオを実行して Arcserve Backup データベースに追加する必要があります。

Arcserve Replication シナリオを実行する方法

1. Arcserve Replication マネージャ インターフェースから、バックアップするシナリオを選択します。
 - シナリオとシナリオのステータスが左側のペインに表示されます。
 - 右ペインには、ディレクトリ（およびサブディレクトリ）とそこに含まれるファイルを表示する、対応するフレームワークが表示されます。
 - 下にある [イベント] ペインに、ホストから受け取った重大なイベント、警告、およびエラーに関する情報が表示されます。

The screenshot displays the Arcserve Replication management console. The main window is titled 'シナリオ ビュー' (Scenario View) and shows a scenario named 'FileServer' in the '実行中' (Running) state. The scenario details table is as follows:

シナリオ	状態	製品	サーバ	モード
FileServer	実行中	DR	FileServer	オンライン

The 'ホスト' (Hosts) table shows the following data:

ホスト	変更済み	送信データ	送信ファイル	受信データ	受信ファイル	スプール...
localhost	0.00 バイト	0.00 バイト	0	-	-	0.00 バイト
155.35.75.124	0.00 バイト	-	-	0.00 バイト	0	0.00 バイト

The right-hand pane shows the 'マスタ 'localhost' 統計情報' (Master 'localhost' Statistics) for the scenario. It indicates the replication process started on 06/02/10 23:45:04 and is using version 15.0.0.2202. Below this, it shows the 'スプール領域' (Spool Area) with 0 Bytes and 0% usage. The 'ルートディレクトリ別のオンラインファイルの変更' (Changes to Online Files by Root Directory) table is also shown:

ルートディレクトリ	サイズ	作成済みフォルダ	変更済み	削除済み	名前変更済み
C:/CA_install_log	0Bytes	0	0	0	0
合計	0Bytes	0	0	0	0

The 'レプリカへの転送バイト数' (Bytes Transferred to Replica) table shows 24.72KB transferred to host 155.35.75.124.

The bottom pane shows the 'イベント' (Events) log:

ID	シーケンス	重大度	ホストシナリオ	時間	イベント
SR00014	5	重要	localhost	2010/06/02 23:45:04	シナリオ FileServer を開始しています
SR00096	4	重要	localhost	2010/06/02 23:44:37	シナリオ FileServer を停止します
CR00404	3	クリティカル	localhost	2010/06/02 23:44:37	スプールの制限を超過しました。停止中...
SR00014	2	重要	localhost	2010/06/02 23:44:34	シナリオ FileServer を開始しています
SM00165	1	重要	FileServer	2010/06/02 23:44:30	localhost に接続しました

2. ツールバーの [シナリオの実行] アイコンをクリックします。

Arcserve Backup サーバ接続ダイアログ ボックスにサーバの名前が表示されます。

Arcserve Backup サーバの更新

Arcserve RHA は Arcserve Backup サーバの更新を必要としています。

Arcserve Backup サーバ名(R): 10.60.17.69

Arcserve Backup ユーザ名(U): |

Arcserve パスワード:

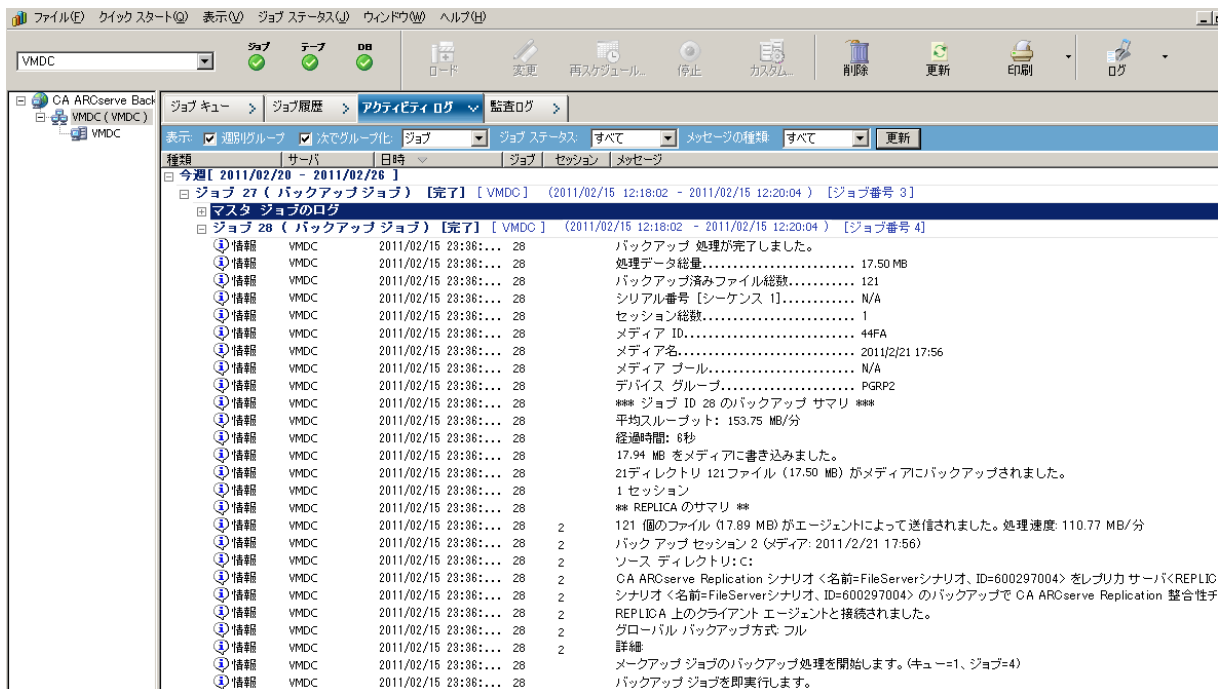
OK Cancel

3. [Arcserve Backup サーバ接続] ダイアログボックスで、正しいユーザー名とパスワードを入力して、Arcserve Backup サーバがレプリカサーバのエージェントと通信できるようにします。

選択したシナリオが Arcserve Backup データベースに追加され、バックアップできるようになりました。

注: バックアップは、Arcserve Replication がレプリケーションモード (シナリオ名の隣に緑色の矢印のアイコンが表示されます) の場合にのみ実行できます。

Arcserve Backup データベース内でのシナリオレコードの作成、削除、または変更に関連した Arcserve Replication 処理を反映するため、Arcserve Backup アクティビティログが更新されます。



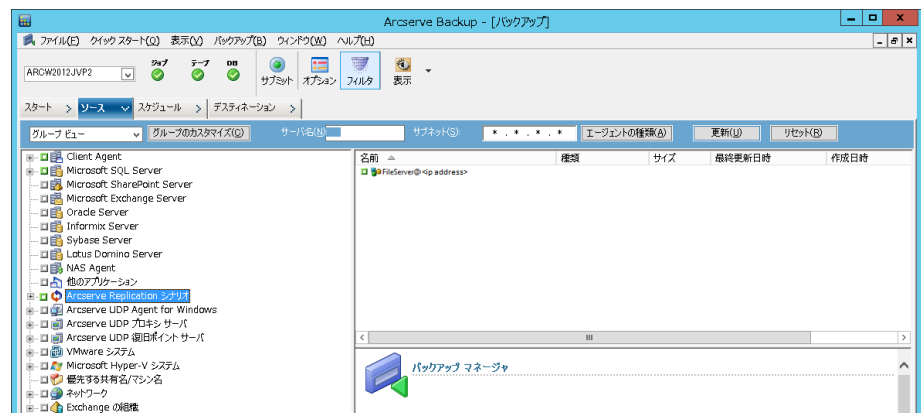
バックアップ ジョブの作成および実行

Arcserve Replication シナリオが Arcserve Backup データベースに追加されると、バックアップ ジョブを作成できます。

バックアップ ジョブを作成して実行する方法

1. Arcserve Backup からバックアップ マネージャにアクセスして、[ソース] タブを選択します。

[ソース] タブの左側のペインに、Arcserve Backup データベースに登録され、バックアップ可能なすべての Arcserve Replication シナリオが一覧表示されます。



2. Arcserve Replication シナリオ ディレクトリを展開して、バックアップするシナリオを選択します。

[セキュリティ] ダイアログ ボックスが開き、レプリカ サーバで稼働している Arcserve Backup Client Agent にログインするためのユーザ名とパスワードの入力を求められます。

3. ユーザ名とパスワードを入力して [OK] ボタンをクリックします。

注: Arcserve Backup does not support logging in to systems with passwords that are greater than 23 characters. ログインしようとしているシステムのパスワードが 23 文字を超える場合は、エージェントシステムにおいてパスワードが 23 文字以下になるように修正すると、エージェントシステムにログインできます。

認証情報が承認されると、バックアップするシナリオを選択できます。

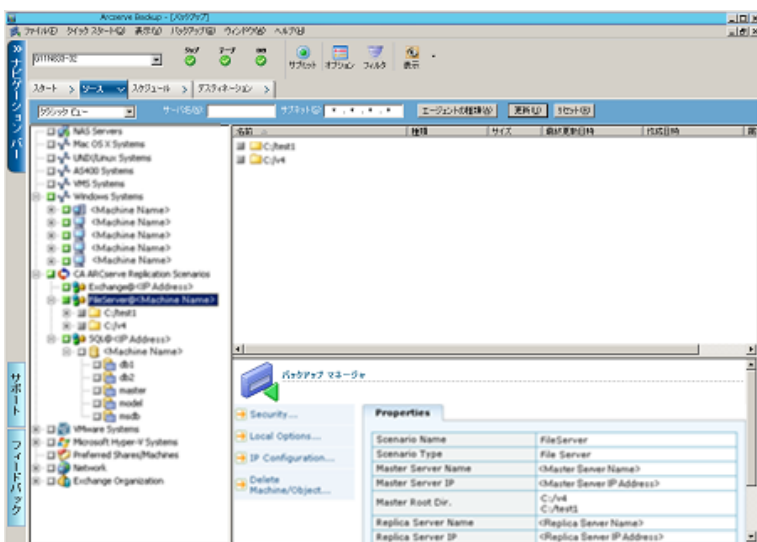
- シナリオを展開して、バックアップシナリオ内にあるエンティティを表示します。

シナリオが関連するエンティティを表示するために展開されます。個々のエンティティは表示のみが可能で、バックアップ用に選択することはできません。サポートされているシナリオには、File Server、MS Exchange、および SQL Server があります。

注: 以下の画面のように、Arcserve Backup サーバに格納されているシナリオの種類（File Server、MS Exchange、または SQL Server）によって、各シナリオで表示されるエンティティは異なります。

- バックアップするファイルを選択します。

以下のように、選択したシナリオの隣にあるマーカボックスが緑色になり、対応するシナリオのプロパティがバックアップマネージャの右側のペインに表示されます。バックアップはすべてフルバックアップになります（増分や差分ではありません）。



バックアップ ジョブにより、シナリオを構成するエンティティごとにセッションが作成されます。エンティティの詳細レベルは、シナリオの種類（File Server、MS Exchange、または SQL Server）によって異なります。

マルチストリームのバックアップ ジョブの場合、各 Arcserve Replication シナリオは、子ジョブとしてバックアップされます。1つのノードに複数のシナリオが含まれている場合、マスタ ジョブによって分割され、それぞれの子ジョブによって1つのシナリオがバックアップされます。



注: シナリオ全体のバックアップのみが可能です。


6. 関連する [ステー징]、[デスティネーション]、[スケジュール]、[グローバル オプション] の選択、および他のバックアップ関連オプションの選択を行います。複数の Arcserve Replication シナリオを選択したり、Arcserve Replication 以外のシナリオをバックアップに含めることもできます。

注: これらのバックアップ オプションの詳細については、「Arcserve Replication and High Availability 管理ガイド」を参照してください。

7. バックアップ マネージャから [サブミット] をクリックして、バックアップを開始します。

[セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが開き、選択したシナリオに関する情報が表示されます。

各 Arcserve Replication シナリオには、2組の認証情報が表示されます。1つはマスタ サーバ用で、もう1つは関連するレプリカ サーバ用です。サーバ名の横に表示されるアイコンは、サーバがマスタ (アクティブ)  であるかレプリカ (スタンバイ)  であることを示します。

 マスタ サーバの認証はマスタ サーバ上の Arcserve Replication エンジンにログインするために使用され、レプリカ サーバの認証はレプリカ サーバで実行中の Arcserve Backup Client Agent にログインするために使用されます。

注: マスタ サーバの認証情報は、PFC (プレフライト チェックリスト) ユーティリティでは確認できません。

8. 該当するサーバを選択して、[セキュリティ] ボタンをクリックします。

選択したサーバに対して [セキュリティ] ダイアログ ボックスが表示されます。

-
9. ユーザ名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。

注: Arcserve Backup does not support logging in to systems with passwords that are greater than 23 characters. ログインしようとしているシステムのパスワードが 23 文字を超える場合は、エージェントシステムにおいてパスワードが 23 文字以下になるように修正すると、エージェントシステムにログインできます。

[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが表示されます。

通常どおりバックアップ手順を続けます。この手順の詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」を参照してください。

10. バックアップ手順が完了したら、[OK] をクリックしてバックアップジョブをサブミットします。

選択したオプションに応じて、バックアップジョブはすぐに実行されるか、ジョブキューに入れられスケジュールされた時刻に実行されます。

重要: バックアップジョブの実行中に Arcserve Replication マネージャにアクセスすると、ポップアップメッセージが表示され、指定したシナリオが別のホストでロックされているので、シナリオを使用できるようにするには [OK] をクリックするよう求められます。[OK] をクリックすると、バックアップジョブに失敗します。それは、Arcserve Backup でシナリオが制御されなくなったからです。バックアップジョブを正常に完了させるには、Arcserve Replication マネージャを開かない、[キャンセル] をクリックする、またはメッセージを無視して [OK] をクリックしない、のいずれかを行う必要があります。

注: スイッチオーバーが発生した場合、Arcserve Backup は Arcserve High Availability (HA) シナリオに追加されているサーバをバックアップできません。シナリオを逆方向で実行している間、バックアップジョブは失敗します。スイッチバックが発生し、シナリオが順方向で実行されると、Arcserve Backup はこれらのサーバを正常にバックアップできます。

第 4 章：統合されたリストア ジョブの実行

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[統合されたリストア ジョブ \(P. 47\)](#)

[Arcserve Replication フェールオーバーを使用したリストア \(P. 48\)](#)

[Arcserve Replication データのリワインドを使用したリストア \(P. 49\)](#)

[Arcserve Backup を使用したリストア \(P. 50\)](#)

統合されたリストア ジョブ

Arcserve Backup と Arcserve Replication の統合により、バックアップされたデータを、さまざまな方式を使用して多様なソースからリストアできるようになります。

統合されたリストアを実行するプロセスには、以下の処理が含まれます。

- Arcserve Replication フェールオーバーを使用したリストア
- Arcserve Replication データのリワインドを使用したリストア
- Arcserve Backup を使用したリストア

Arcserve Replication フェールオーバーを使用したリストア

フェールオーバーは、マスタ サーバ上で保護されているアプリケーションの障害を検出し、基本的にはデータも時間も全く無駄にせずに指定されたレプリカ サーバに（自動的にまたは手動で）切り替える機能です。マスタ サーバで障害が発生した場合、またはメンテナンスのためにシャットダウンする必要がある場合、同期化された（ローカルまたはリモートにある）レプリカが瞬時に自動的にマスタ サーバに切り替わります。

フェールオーバー機能を使用した Arcserve Replication のリストアの利点は、マスタ サーバでハードウェア障害があっても、即座にデータ処理を再開できることです。データの損失やサービスの中断なしに、レプリカ サーバからすぐにデータがリカバリされます。

自動フェールオーバーは、マスタ サーバで実行中のアプリケーションが自動的にレプリカ サーバにスイッチして実行されるように設計されています。このプロセスは完全に透過的にすることも、ユーザの操作を必要とするように設定することもできます。

手動フェールオーバーはさまざまな理由で開始されます（通常はメンテナンス目的で行われます）が、最終的にはマスタ サーバからレプリカ サーバにアプリケーションプロセスが切り替えられます。

注:フェールオーバー機能を使用した、レプリカ サーバからの損失データのリカバリ手順の詳細については、「*Arcserve Replication and High Availability 管理者ガイド*」を参照してください。

Arcserve Replication データのリワインドを使用したリストア

データのリワインドは、ファイルを破損前の時点（リワインドポイント）までリワインドできるリストア方式です。レプリケーションでは継続的にソースデータがレプリカサーバに更新されるので、レプリカサーバには常にマスタサーバと同じデータが格納されています。データの破損が発生した場合、レプリカサーバ内のデータも破損しているため、レプリカサーバから最新のファイルをリカバリしても役に立ちません。これらのリワインドポイントは、イベントまたは処理をマークするリワインドログ内のチェックポイントとして機能します。格納される実際の情報には、リワインドポイントがアクティブになった場合にイベントを取り消す処理が含まれます。データリカバリでは、リワインドログ内のこれらのリワインドポイントまたはブックマークを使用して、現在のデータが以前の状態にリセットされます。このビルトインリワインド技術はレプリカサーバで機能するので、以前の状態への「データのリワインド」はレプリカサーバでのみ実行できます。

データのリワインド機能を使用した Arcserve Replication リストアの利点は、リカバリが高速であること、リカバリ可能なデータを非常に詳細に指定できること、およびアプリケーション対応のレプリケーションとリカバリを使用できることです。

注: データのリワインド機能を使用した、レプリカサーバからの損失データのリカバリ手順の詳細については、「*Arcserve Replication and High Availability 管理者ガイド*」を参照してください。

Arcserve Backup を使用したリストア

Arcserve Replication マスタ サーバから Arcserve Replication レプリカ サーバにレプリケートされ、Arcserve Backup でバックアップされたデータは、以下の方式を使用して回復できます。

- セッション単位でリストア
- ツリー単位
- 照会単位でリストア

レプリカ サーバにリストアする場合は、対応するアプリケーションが実行中でないことを必ず確認し、現在使用中のファイルのリストアを避けるようにしてください。マスタ サーバにリストアするときには、Arcserve Backup Client Agent がインストールされていて稼働中であることを確認してください。

注: For SQL Server and MS Exchange scenarios, only full session restores are supported. File Server シナリオの場合、特定のファイル、ディレクトリ、またはボリュームの細かいリストアがサポートされています。

また、使用しているリストア方式に関係なく、関連する [スケジュール]、[グローバル] オプションを選択したり、他のリストア関連のオプションを選択できます。これらのリストア オプションの詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」を参照してください。

Arcserve Replication 固有のグローバルリストア オプションの設定

リストア マネージャには、選択するリストア方式には関係なく設定可能な Arcserve Replication 固有のグローバル リストア オプションが搭載されています。

Arcserve Replication 固有のグローバルリストア オプションを設定する方法

1. [リストア マネージャ] ウィンドウで、[オプション] ツールバー ボタンをクリックします。

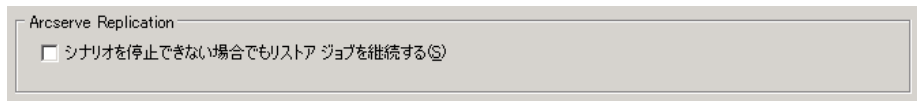
[グローバル オプション] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [操作] タブを選択します。

[操作] ダイアログ ボックスが開き、Arcserve Replication 固有のオプション[シナリオを停止できない場合でもリストアジョブを継続する]が表示されます。

デフォルトではこのオプションはオフになっています。つまり、リストア プロセス中に Arcserve Replication でシナリオを停止できない場合は、ジョブは正常に終了しません。このオプションを選択すると、Arcserve Replication はシナリオの停止を試みますが、シナリオを停止できない場合は、リストア ジョブは続行されます。このオプションには以下のようなメリットとデメリットがあります。

- このオプションをオンにすると、リストアが正常に実行される可能性が高くなります。
- しかし、このオプションをオンにすると、シナリオの実行中に継続的なレプリケーションが行われるため、マスタ サーバに問題がある場合は、その問題のデータによってレプリカ サーバのリストア データが上書されてしまいます。



セッション単位でリストア

[セッション単位] 方式では、セッションを選択し、リストアするファイルとディレクトリを選択できます。メディアの名前はわかっているが、リストアしたいセッションが不明な場合は、この方法を使用します。この方法では、Arcserve Backup データベースが使用されるため、データベースエンジンが停止している場合は、このリストア方法は機能しません。

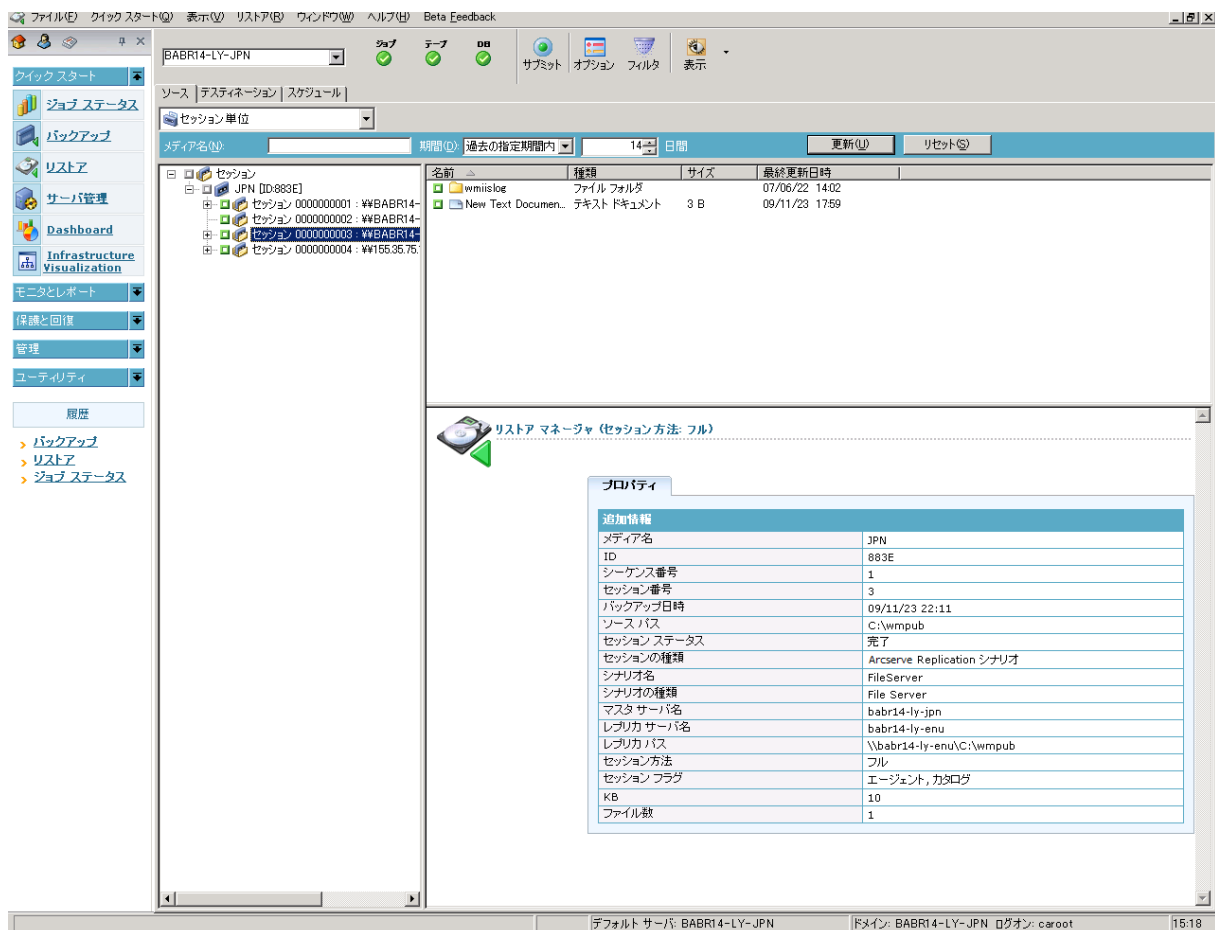
1つのバックアップ ジョブをセッション単位でリストアする方法

1. Arcserve Backup からリストア マネージャにアクセスして、[ソース] タブを選択し、[ソース ビュー] ドロップダウンメニューから [セッション単位] を選択します。

リストア マネージャの左側のペインに、バックアップ済としてリストア可能なすべての Arcserve Replication シナリオが一覧表示されます。

2. リストアするセッションを選択します。

対応するセッションの内容とプロパティが、リストア マネージャの右側のペインに表示されます。



The screenshot shows the Arcserve Backup software interface. The main window is titled "リストア マネージャ (セッション方法: フル)". The interface is divided into several sections:

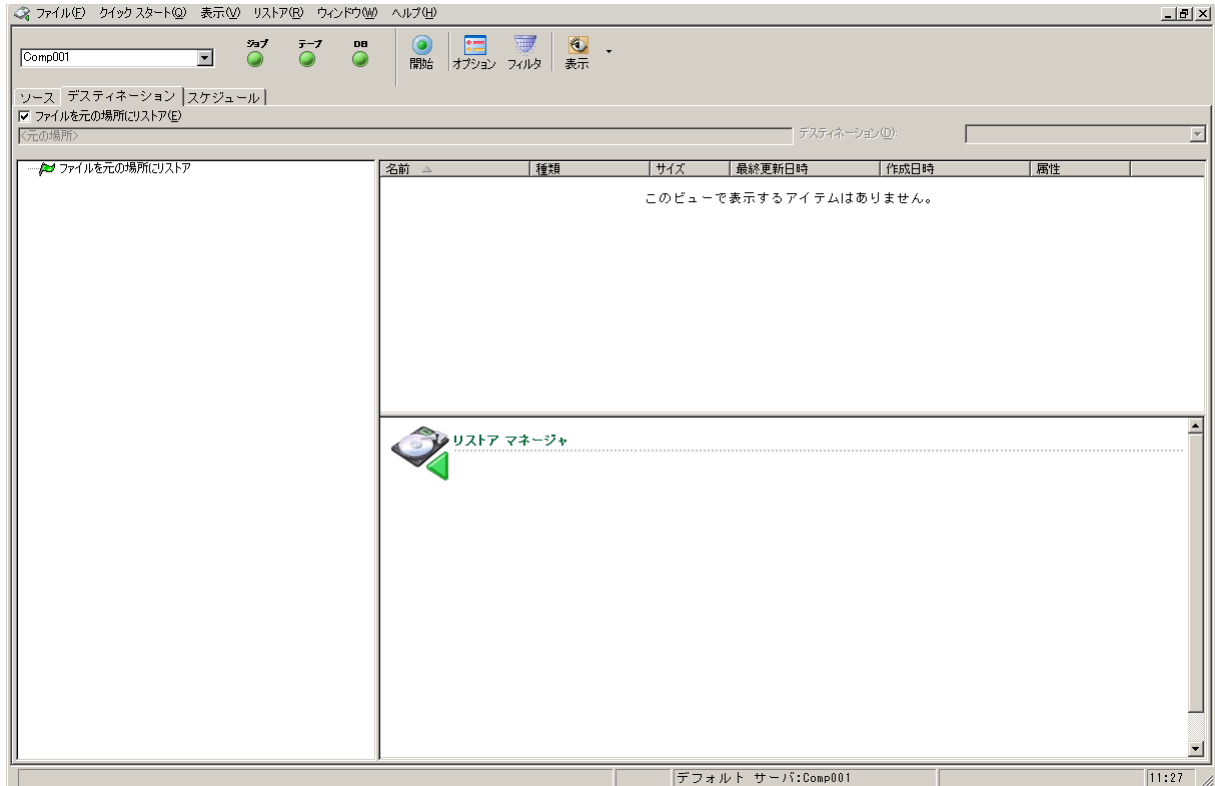
- Left Panel:** A navigation menu with options like "クイックスタート", "ジョブ ステータス", "バックアップ", "リストア", "サーバ管理", "Dashboard", "Infrastructure Visualization", "モニタとレポート", "保護と回復", "管理", and "ユーティリティ".
- Top Panel:** Contains the server name "BABR14-LY-JPN" and status indicators for "ジョブ", "テープ", and "DB".
- Session List:** A table listing sessions. The selected session is "セッション 000000003 - ¥BABR14-LY-JPN".
- Property View:** A detailed view of the selected session's properties.

名前	種類	サイズ	最終更新日時
JPN [ID:883E]			
セッション 000000001 - ¥BABR14-LY-JPN			
セッション 000000002 - ¥BABR14-LY-JPN			
セッション 000000003 - ¥BABR14-LY-JPN			
セッション 000000004 - ¥155.35.75			

追加情報	
メディア名	JPN
ID	883E
シーケンス番号	1
セッション番号	3
バックアップ日時	09/11/23 22:11
ソースパス	C:\wmpub
セッション ステータス	完了
セッションの種類	Arcserve Replication シナリオ
シナリオ名	FileServer
シナリオの種類	File Server
マスタ サーバ名	babr14-ly-jpn
レプリカ サーバ名	babr14-ly-enu
レプリカパス	\\babr14-ly-enu\C:\wmpub
セッション方法	フル
セッション フラグ	エージェント, カタログ
KB	10
ファイル数	1

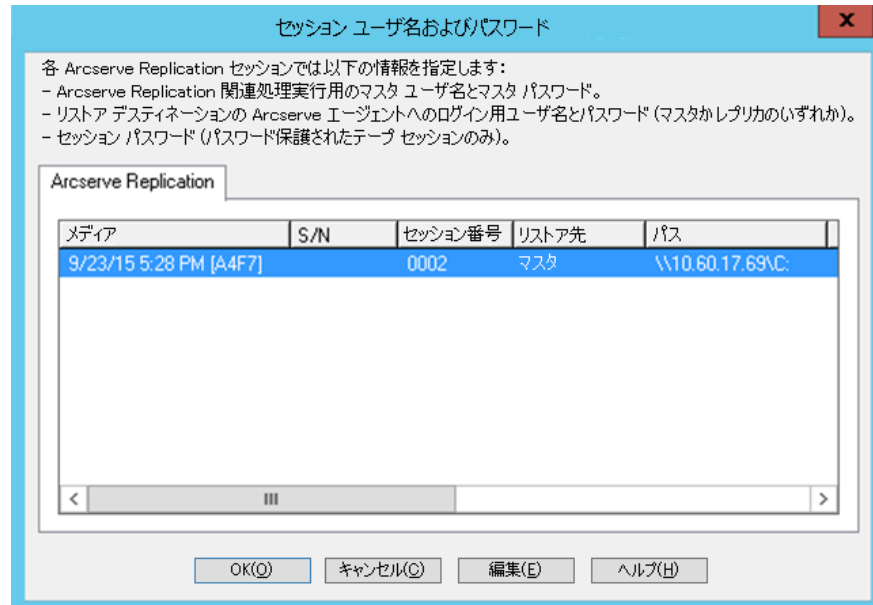
3. [ディステーション] タブを選択して、リストア ファイルの保存場所を指定します。

ソース ファイルは、以下の画面のように、元のディレクトリ構造 (元の場所) または指定した任意の場所 (別の場所) にリストアできます。



4. 元の場所にファイルをリストアする（デフォルト オプション）には、以下の手順に従います。
 - a. [ファイルを元の場所にリストア] オプションのチェック ボックスがオンになっていることを確認したら、[サブミット] ボタンをクリックしてジョブを実行します。

[セッション ユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開きます。



SQL Server および MS Exchange の場合、対応するアプリケーションの実行中に Arcserve Replication シナリオを元の場所にリストアすると、リストアされたファイルは一時的に拡張子 .TMP で作成されます。リストア ジョブが正常に終了すると、既存のアクティブなファイルを上書きおよび置き換えるためにサーバの再起動を求められます。サーバが再起動すると、リストアされたファイルが元のデータベースにマージされます。対応するアプリケーションが実行中でない場合、元の場所へのリストア プロセスの際に一時ファイルは作成されないため、サーバを再起動する必要はありません。

重要: クラスタ環境にインストールされている SQL Server は、再起動できないため、元の場所へリストアを実行する前にアプリケーション リソースを停止する必要があります。

- b. ファイルをリストアするサーバ（マスタまたはレプリカ）を選択して、選択した行をダブルクリックするか、[編集] ボタンをクリックします。

[Arcserve Replication セッション用ユーザ名およびパスワードの入力] ダイアログ ボックスが開きます。

リストア オプション

マスタサーバにリストアする BABR14-LY-JPN

レプリカサーバにリストアする babr14-ly-enu

マスタサーバのユーザ名(M)

マスタサーバのパスワード(P)

レプリカサーバのユーザ名(R)

レプリカサーバのパスワード(P)

セッション パスワード(S)

オプション、ユーザ名、およびパスワードをすべての行に適用する(A)

OK(O)

キャンセル(C)

ヘルプ(H)

- c. リストア オプション [マスタサーバにリストアする] または [レプリカサーバにリストアする] を選択します。

通常、レプリカサーバへのリストアの方が効率的であり、実稼動（マスタ）サーバの処理を中断しません。[マスタサーバにリストアする]は、高速リカバリの必要がある場合、またはマスタサーバ環境を再構成する必要がある場合（環境が壊れている場合）のみ選択してください。

- Arcserve Backup r12.5 および r15 の場合、デフォルトではマスタサーバが選択されています。
- その他のサポートされているすべてのリリースの Arcserve Backup では、デフォルトでレプリカサーバが選択されています。

注:レプリカサーバにリストアする場合は、対応するアプリケーションが実行中でないことを必ず確認し、現在使用中のファイルのリストアを避けるようにしてください。マスタサーバにリストアするときには、Arcserve Backup Client Agent がインストールされていて稼働中であることを確認してください。

- d. サーバセキュリティ認証（ユーザ名とパスワード）とセッションパスワードを入力します。

注:パスワード管理には、バックアップ中にセッションパスワードを暗号化するオプションが用意されており、繰り返しパスワードを入力する必要はありません。バックアップジョブのサブミット時に、パスワードは暗号化された形式で格納され、リストア時に自動的に使用されます。パスワード管理の詳細については、「*Arcserve Backup 管理者ガイド*」を参照してください。

- レプリカサーバにリストアする場合は、マスタサーバとレプリカサーバの両方にアクセスするためのセキュリティ認証情報を入力する必要があります。
 - マスタサーバにリストアする場合は、マスタサーバにアクセスするためのセキュリティ認証情報を入力する必要があります。
- e. [OK] をクリックします。
- [ジョブのサブミット] ダイアログボックスが表示されます。
- f. 他の Arcserve Backup のリストアジョブと同様の手順でリストア作業を続けます。この手順の詳細については、「*Arcserve Backup 管理者ガイド*」を参照してください。

5. ファイルを別の場所にリストアするには、以下の手順に従います。

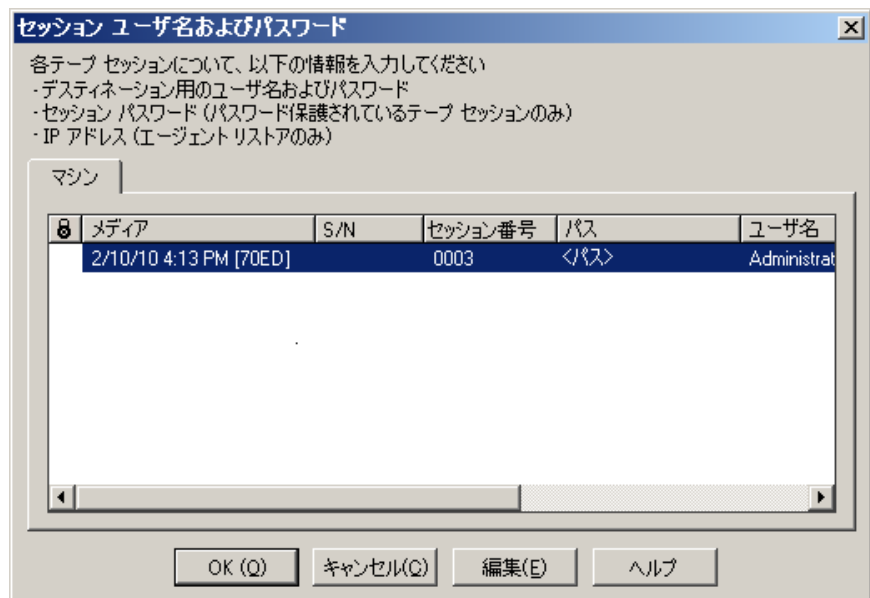
- a. [ファイルを元の場所にリストア] オプションのチェック ボックスをオフにして、デスティネーションフォルダを選択します。

リストア ファイルの保存場所が指定されました。

重要: Arcserve Replication のリストアは、Windows Systems Client Agent でのみサポートされています。そのため、別のリストア場所は Windows Systems Client Agent ツリー内にあるデスティネーションマシンまたはボリュームである必要があります。Client Agent ツリーの下にないサーバツリーまたは他のツリーにリストアしようとする、リストア ジョブは失敗します。必要に応じて、新しいクライアントエージェント マシンを追加できます。新しいクライアント オブジェクトを追加する手順については、「管理者ガイド」を参照してください。

- b. [サブミット] をクリックしてジョブを実行します。

[セッション ユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開きます。



- c. ファイルをリストアするマシンを選択して、選択した行をダブルクリックするか、[編集] ボタンをクリックします。

[ユーザ情報] ダイアログ ボックスが開きます。

- d. セキュリティ認証 (ユーザ名とパスワード) を入力し、[OK] をクリックします。

[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが表示されます。

- e. 他の Arcserve Backup のリストア ジョブと同様の手順でリストア作業を続けます。この手順の詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」を参照してください。

ツリー単位でリストア

ツリー単位のリストアでは、Arcserve Backup でバックアップされた、表示されているファイルおよびディレクトリから、特定のディレクトリまたはドライブをリストアします。必要なデータがどのメディアに入っているかわからないが、どのマシンからそのデータがバックアップされたかがわかっている場合は、この方法を使用します。

[ツリー単位] では、バックアップの最後のインスタンスのみが表示されます。それ以外のインスタンスをすべて表示し、アクセスするには、リストアするオブジェクトを選択して [復旧ポイント] ボタンをクリックします。ツリー単位ビューには、マスタ サーバ固有のビューのみ表示されません。

ツリー単位でバックアップ ジョブをリストアする方法

1. Arcserve Backup からリストア マネージャにアクセスして、[ソース] タブを選択し、[ソース ビュー] ドロップダウンリストから [ツリー単位] を選択します。

注: 必要に応じて、復旧ポイント日を選択し、別のセッションをリストア対象として選択することができます。

リストア マネージャの左側のペインに、バックアップ済みの、リストア可能なボリューム、ドライブ、ディレクトリ、およびファイルが一覧表示されます。

2. リストアするデータを選択します。

対応する内容とプロパティが、リストア マネージャの右側のペインに表示されます。

-
3. [ディステーション] タブを選択して、リストア ファイルの保存場所を指定します。ソース ファイルは、元のディレクトリ構造（元の場所）または指定した任意の場所（別の場所）にリストアできます。

リストア ファイルの保存場所が指定されました。

[セッション ユーザ名およびパスワード] ダイアログ ボックスが開きます。

SQL Server および MS Exchange の場合、対応するアプリケーションの実行中に Arcserve Replication シナリオを元の場所にリストアすると、リストアされたファイルは一時的に拡張子 .TMP で作成されます。リストア ジョブが正常に終了すると、既存のアクティブなファイルを上書きおよび置き換えるためにサーバの再起動を求められます。サーバが再起動すると、リストアされたファイルが元のデータベースにマージされます。対応するアプリケーションが実行中でない場合、元の場所へのリストア プロセスの際に一時ファイルは作成されないため、サーバを再起動する必要はありません。

Arcserve Replication のリストアは、Windows Systems Client Agent でのみサポートされています。そのため、別のリストア場所は Windows Systems Client Agent ツリー内にあるディステーションマシンまたはボリュームである必要があります。Client Agent ツリーの下にないサーバ ツリーまたは他のツリーにリストアしようとする、リストア ジョブは失敗します。必要に応じて、新しいクライアント エージェント マシンを追加できます。新しいクライアント オブジェクトを追加する手順については、「管理者ガイド」を参照してください。

重要: クラスタ環境にインストールされている SQL Server は、再起動できないため、元の場所へリストアを実行する前にアプリケーション リソースを停止する必要があります。

4. セッション単位方式と同様の手順でリストアを続けます。

照会単位でリストア

[照会単位] 方式では、ファイルまたはディレクトリの名前を特定するための検索パターンに基づいて、ファイルをリストアします。リストアするファイルまたはディレクトリの名前はわかっているが、バックアップ元のマシンまたはバックアップ先のメディアがわからない場合は、この方法を使用します。この表示では Arcserve Backup データベースを使用します。

注: [照会単位] 方式では、File Server シナリオのみがサポートされます。

1 つのバックアップ ジョブを照会単位でリストアする方法

1. Arcserve Backup からリストア マネージャにアクセスして、[ソース] タブを選択し、[ソース ビュー] ドロップダウンメニューから [照会単位] を選択します。

リストア マネージャの上のペインにフィールドが表示され、バックアップ済みでリストア可能なシナリオの検索条件を入力できます。

2. 検索条件を指定して、[照会] をクリックします。

リストア マネージャの下側のペインに、照会条件に一致する項目がすべて表示されます。

3. リストアするファイルまたはディレクトリを選択し、[サブミット] ボタンをクリックしてジョブを実行します。

選択したファイルまたはディレクトリが Arcserve Replication シナリオの場合、[Arcserve Replication セッション用ユーザ名およびパスワードの入力] ダイアログボックスが表示されます。

リストア オプション

マスタ サーバにリストアする BABR14-LY-JPN

レプリカ サーバにリストアする babr14-ly-enu

マスタ サーバのユーザ名(M)

マスタ サーバのパスワード(P)

レプリカ サーバのユーザ名(R)

レプリカ サーバのパスワード(P)

セッション パスワード(S)

オプション、ユーザ名、およびパスワードをすべての行に適用する(A)

OK(O)

キャンセル(Q)

ヘルプ(H)

選択したファイルまたはディレクトリが Arcserve Replication シナリオでない場合、[セッション ユーザ名およびパスワード] ダイアログボックスが表示されます。

セッション ユーザ名およびパスワード

各テープ セッションについて、以下の情報を入力してください

- デスティネーション用のユーザ名およびパスワード
- セッション パスワード (パスワード保護されているテープ セッションのみ)
- IP アドレス (エージェントリストアのみ)

マシン

マシン	メディア	S/N	セッション番号	パス	ユーザ名
	2/10/10 4:13 PM [70ED]		0003	</パス>	Administrat

OK(Q) キャンセル(Q) 編集(E) ヘルプ

4. セッション単位方式と同様の手順でリストアを続けます。

マスタマシンへの MS Exchange シナリオのリストア

MS Exchange シナリオからマスタ サーバにバックアップデータをリストアしている場合、メールボックスストアはリストア前に自動的にマウント解除されず、リストアジョブの終了後にマウントされません。Exchange ストレージグループをマスタ サーバにリストアするには、以下の手順を実行する必要があります。

マスタサーバへの MS Exchange シナリオのリストア

1. Exchange 管理コンソールから、リストアするストレージグループ内の各データベースを個別にマウント解除します。

ストレージグループ内のすべてのデータベースがマウント解除されます。

2. Microsoft Exchange Server メールボックスフォルダにアクセスし、すべてのストレージグループ ファイルをフォルダから削除します。

すべてのストレージグループ ファイルが削除されます。

注:サーバ上に十分なディスク空き容量がある場合、コンテンツを削除する代わりに、フォルダの名前を変更し、リストアジョブが正常に実行された後に削除することができます。

3. マスタサーバへのリストアを実行します（セッション単位、ツリー単位、または照会単位のリストアを使用）。
4. リストアが正常に完了したら、Exchange 管理コンソールに戻り、リストアされたストレージグループ内の各データベースをマウントします。

マスタマシンへの Microsoft SQL Server データベースのリストア

Arcserve Backup を使用してマスタ サーバに SQL データベースをリストアする場合、SQL Server 2008 を実行していると、Windows で SQL Server を開始できないことを示すエラー メッセージが表示される場合があります。(This error does not affect SQL Server 2005 restore jobs.) This error is caused by the Network Service or Local Service accounts, which do not have access rights to the SQL log file on the Master.

このエラーを回避するには、以下の 3 とおりの方法があります。

- Arcserve Replication and High Availability で、[ACL のレプリケート] オプションを [オン] に設定します。これにより、マスタ SQL データ ディレクトリのすべての ACL 情報がリカバリ後に保持されるため、SQL サービスが機能するようになります。
- In Arcserve Backup, manually add the following user account after recovery to the ACL of the SQL data directories on the Master: SQLServerMSSQLUser\$Computer Name\$Instance Name
- In Arcserve Backup disable the following restore option to NOT overwrite the ACL of the SQL data folders on the Master after restore: Arcserve Backup Manager, Global Options, Operation. [ファイルの属性とセキュリティ情報をリストア] オプションをオンまたはオフにします。このオプションをオンにすると、ACL が上書きされます。オプションをオフにすると、ACL が上書きされません。

第5章: バックアップ ジョブとレプリケーション ジョブのモニタリング

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[統合されたジョブ モニタリング \(P. 65\)](#)

[Arcserve Backup を使用したジョブ ステータスのモニタリング \(P. 65\)](#)

[Arcserve Replication を使用したジョブ ステータスのモニタリング \(P. 68\)](#)

[アラート通知 \(P. 73\)](#)

[レポートの生成 \(P. 74\)](#)

統合されたジョブ モニタリング

バックアップ ジョブとレプリケーション ジョブのステータスのモニタリングは、リアルタイム イベント モニタリング、生成されたアラート、およびさまざまなレポートの組み合わせから構成されます。Arcserve Backup および Arcserve Replication を利用して、統合化されたバックアップ プロセス全体をモニタリングできます。

Arcserve Backup を使用したジョブ ステータスのモニタリング

バックアップ プロセスのモニタリングの手順は、統合された環境でも変わりません。バックアップ プロセスのモニタリングの詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」を参照してください。

統合化されたバックアップ プロセスのモニタリングは、Arcserve Backup のジョブ ステータスマネージャを使用して行います。ジョブ ステータスマネージャは、グラフィカル ツールで、企業内の Arcserve Backup サーバを一元管理して、保留中、完了、およびアクティブなジョブをすべて [ジョブ ステータスマネージャ] ウィンドウからモニタリングできます。[ジョブ ステータスマネージャ] ウィンドウには、モニタリングするための [ジョブ キュー] タブと [アクティビティ ログ] タブがあります。。

ジョブ キュー モニタリング

右ペインの [ジョブ キュー] タブには、すべてのジョブの情報が表示されます。Arcserve Backup バックアップ マネージャでジョブを実行またはスケジュールするたびに、ジョブ キューにジョブをサブミットします。Arcserve Backup は、実行待ちのジョブのためにジョブ キューを常時スキャンします。

Arcserve Backup キュー内にジョブがあると、ステータスも一緒に表示されます。表示されるステータスは、以下のいずれかです。

処理済み

実行済みのジョブ（繰り返し間隔の指定なし）。

レディ

実行待ち状態にある、新規の 1 回限りのジョブまたは繰り返しジョブ。たとえば、毎週金曜日に実行されるジョブなどです。

アクティブ

現在実行中のジョブ。

ホールド

キュー内で実行待ちのジョブ。

統合されたバックアップ ジョブがサブミットされると、[ジョブ キュー] ウィンドウにシナリオ名が表示され、ジョブの進行状況をモニタリングできます。

Activity Log Monitoring

右ペインの [アクティビティ ログ] タブには、Arcserve Backup によって実行されたすべての処理情報が一般的に記録されます。アクティビティ ログは、実行されたすべてのジョブの監査記録になります。このログには、それぞれのジョブについて、以下の情報が含まれます。

- ジョブの開始日時と終了日時
- ジョブの種類
- データの平均スループット
- 処理された（つまりバックアップ、リストア、またはコピーされた）ディレクトリとファイルの総数
- ジョブのセッション番号とジョブ ID
- ジョブの結果
- ジョブの実行中に発生したエラーと警告

統合されたバックアップジョブがサブミットされると、[アクティビティ ログ] ウィンドウにシナリオ名が表示され、ジョブの進行状況をモニタリングできます。

Arcserve Replication を使用したジョブ ステータスのモニタリング

レプリケーションプロセスのモニタリングの手順は、統合された環境でも変わりません。レプリケーションプロセスのモニタリングの詳細については、「CA Arcserve Replication/High Availability 管理者ガイド」を参照してください。

シナリオの実行後は、Arcserve Replication マネージャからレプリケーションプロセスをモニタリングできます。モニタリングによって、ステータス情報、統計、およびイベントが表示できます。CA Arcserve Replication マネージャのメインウィンドウは、シナリオ、フレームワーク、イベントという3つの従属ペインで構成されます。

The screenshot displays the CA Arcserve Replication management console. The main window is titled 'シナリオ ビュー' (Scenario View) and shows a table of replication scenarios. The 'FileServer' scenario is highlighted, showing it is in the '実行中' (Running) state. The table below shows the status of the replication process for the 'localhost' host.

シナリオ	状態	製品	サーバ	モード	
FileServer	実行中	DR	FileServer	オンライン	
ホスト	変更済み	送信データ	受信データ	受信ファイル	スプール形...
localhost	0.00 バイト	0.00 バイト	0	-	0.00 バイト
155.35.75.124	0.00 バイト	-	-	0.00 バイト	0

The right-hand pane shows the '統計情報' (Statistics) for the 'localhost' master. It includes a table for the replication status and a table for the number of online files per directory.


状態	実行中
レプリケーションの開始	06/02/10 23:45:04
バージョン	15.0.0.2202

ルートディレクトリ	サイズ	作成済みフォルダ	変更済み	削除済み	名前変更済み
C:/CA_install_lo...	0Bytes	0	0	0	0
合計	0Bytes	0	0	0	0


The bottom pane shows the 'イベント' (Events) log, listing recent actions such as starting and stopping the FileServer scenario.

ID	シーケンス	重大度	ホストシナリオ	時間	イベント
SR00014	5	重要	localhost	2010/06/02 23:45:04	シナリオ FileServer を開始しています
SR00096	4	重要	localhost	2010/06/02 23:44:37	シナリオ FileServer を停止します
CR00404	3	クリティカル	localhost	2010/06/02 23:44:37	スプールの制限を超過しました。停止中...
SR00014	2	重要	localhost	2010/06/02 23:44:34	シナリオ FileServer を開始しています
SM00165	1	重要	FileServer	2010/06/02 23:44:30	localhost に接続しました


シナリオ ペインには、各ホストが、レプリケーション プロセスの現在のステータスと共に表示されます。レプリケーションのステータスは、シナリオ名の左に表示される以下のアイコンのいずれかで判断できます。

実行中 

シナリオのレプリケーション プロセスが正常に実行中です。

停止済み 

シナリオは作成されましたが、レプリケーション プロセスが停止または中断されています。

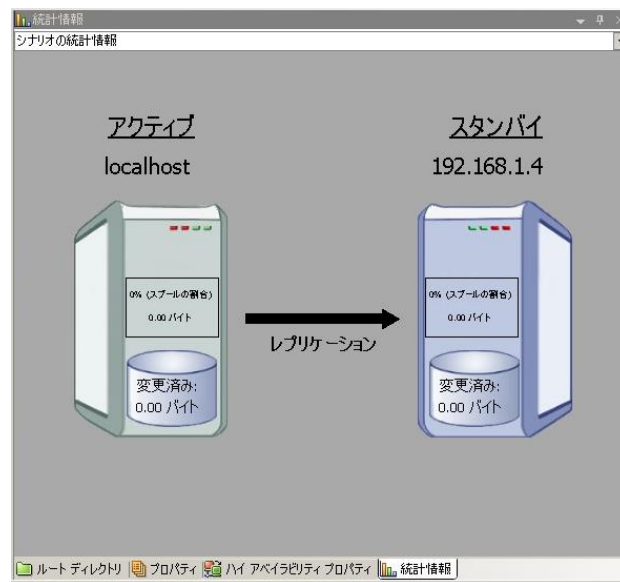
エラー 

シナリオに問題があります。シナリオ名をクリックして、関連するエラーメッセージを [イベント] ウィンドウに表示できます。

Not Authorized 

マスタ サーバに対するユーザ名またはパスワードが不正か不明です。

フレームワーク ペインには、ディレクトリ、サブディレクトリ、およびそれらに含まれるファイルが表示されます。フレームワーク ペインには、ジョブのステータスに応じて、[統計情報]、[ディレクトリ]、および [プロパティ] の各タブ、またはそのうちの2つが表示されます。[統計情報] タブはレプリケーションプロセスの実行中にのみ使用でき、ルートディレクトリごとのデータ量、レプリカごとの記録されたデータ、および同期化情報が表示されます。ドロップダウンメニューから [シナリオの統計情報] (グラフィックによるシナリオステータス概要)、[マスタ統計情報] (表形式のマスタサーバステータス概要)、[レプリカ統計情報] (表形式のレプリカサーバステータス概要) の表示を選択可能です。



統計情報

マスタ (アクティブ) 'localhost' 統計情報

状態	実行中
レプリケーションの開始	04/08/10 00:50:26
バージョン	15.0.0.2142

スプール領域:

サイズ	しきい値の割合 (%)
0Bytes	0%

ルートディレクトリ別のオンラインファイルの変更:

ルートディレクトリ	サイズ	作成済みフォルダ	変更済み	削除済み	名前変更済み
C:/ADFS	0Bytes	0	0	0	0
合計	0Bytes	0	0	0	0

レプリカへの転送バイト数:

ホスト	合計送信データ	現在のファイル名	送信されるデータ	現在の進捗状況
192.168.1.4	43.26KB	0	0Bytes	

最後の同期 統計情報: ファイル同期

同期の進捗状況:

- localhost -> 192.168.1.4

C:/ADFS

状態	ファイル数	合計サイズ	比較の進捗状況	送信されるデータ	送信の進捗状況	開始時間	完了時間
Initial	0	0Bytes		0Bytes		2010/04/08 0:50:37	

イベント ペインには、メッセージと一般的な情報（たとえば、ディレクトリが同期化された、サーバが接続された、同期化が開始/終了した、など）が表示されます。この情報は、実行中のレプリケーションシナリオに含まれているサーバから取得されます。イベント ペインの情報には、サーバ名、時刻、イベントの簡単な説明が含まれます。重要な情報やエラーメッセージは太字で表示されます。さらにイベント ペインには、以下の画面のように Arcserve Replication 経由で開始されたバックアップジョブの Arcserve Backup ステータスも表示されます。

The screenshot displays the CA ARCserve RHA Manager interface. The main window shows a tree view of replication scenarios. The 'Exchange 1' scenario is highlighted, showing it is in the '実行中' (Running) state. The '統計情報' (Statistics) window is open, showing a diagram of two servers: 'アクティブ' (Active) at 192.168.1.2 and 'スタンバイ' (Standby) at 192.168.1.4. A bidirectional arrow labeled 'Is Alive' connects them, and a downward arrow labeled 'レプリケーション' (Replication) points from the active server to the standby server. The 'イベント' (Events) window at the bottom shows a list of events with columns for ID, Severity, Host Scenario, Time, and Description.

ID	シーケン	重大度	ホストシナリオ	時間	イベント
SR00202	39	重要	192.168.1.4	2010/04/08 20:55:46	同期処理中の変更はすべてレプリケートされました
IM00405	38	情報	Exchange 1	2010/04/08 20:55:45	'2010/04/08 20:55:44'に作成された同期 レポートを [レポート]へボ
SR00120	36	重要	192.168.1.4	2010/04/08 20:55:44	同期処理が終了しました
IR00119	35	情報	192.168.1.4	2010/04/08 20:55:44	ルート ディレクトリ C:/ADFS は同期されました
IR00300	34	情報	192.168.1.4	2010/04/08 20:55:39	共有が有効になりました
IR00298	33	情報	192.168.1.4	2010/04/08 20:55:38	共有を有効にしています
WR002155	32	警告	192.168.1.4	2010/04/08 20:55:38	ルート ディレクトリ C:/ADFS は、IIS という名前の別々のシナリオと競合し
WR002275	31	警告	192.168.1.4	2010/04/08 20:55:37	NT AUTHORITY\SYSTEM はドメイン管理者グループのメンバーではあ

アラート通知

アラートの生成および受信手順は、統合された環境でも変わりません。

- バックアッププロセス中のアラート生成の詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」を参照してください。
- レプリケーションプロセス中のアラート生成の詳細については、「CA ARCserve Replication/High Availability 管理者ガイド」を参照してください。

Arcserve Backup Alerts-XOsoftW

Alert 通知システムを使用すると、バックアップ処理中にアクティビティログに表示されるイベントに関するメッセージを通知できます。また、これらのアラート通知の受信方式も指定できます。通知されるイベントを以下の中から1つ以上選択できます。

[ジョブが完了した時]

すべてのノード、ドライブ、共有リソースが処理されました。

[ジョブが未完了の時]

一部のノード、ドライブ、共有リソース、またはファイルが不明です。

[ジョブがキャンセルされた時]

ユーザがジョブをキャンセルしました。

[ジョブが失敗した時]

ジョブを開始したが未完了です。

[ウイルスが検出された時]

バックアップ対象のファイルの1つでウイルスが検出されました。

[カスタマイズされたイベント]

カスタマイズされたイベントが発生しました。このイベントを指定するには、[イベント] ドロップダウンリストの下部にあるフィールドに、エラー、警告、または通知コードを入力します。

Arcserve Replication アラート

すべてのイベントはリアルタイムで Arcserve Replication マネージャにレポートされ、OS のイベント ログシステムに統合されます。アラートは設定されたアドレスに電子メールで自動的に送信できます。また、通知スクリプトを有効にすることもできます。同期化とレプリケーションの間には、詳細なリアルタイム統計情報が提供されます。シナリオに対してイベント通知が設定されると、以下の条件で通知がトリガされます。

接続の切断

TCP 接続を使用できない、またはネットワークあるいはサーバがダウンしています。

キューのオーバーフロー

キュープールディレクトリ内のデータ量が、そのしきい値を超えています。

その他

その他のエラー

重要な情報

同期化の完了時刻などの重要な情報です。

レポートの生成

レポートの生成手順は、統合された環境でも変わりません。

- バックアッププロセス中のレポートの詳細については、「*Arcserve Backup 管理者ガイド*」を参照してください。
- レプリケーションプロセス中のレポートの詳細については、「*CA ARCserve Replication/High Availability 管理者ガイド*」を参照してください。

Arcserve Backup レポート

Arcserve Backup レポート マネージャおよび Arcserve Replication で生成されたレポートは、互いに補完し合い、Arcserve Backup データベースに格納されたアクティビティを基にさまざまなレポートを提供します。レポートをプレビューしたり、プリンタまたはファイルに出力したり、レポートの作成をスケジューリングしたりすることができます。Arcserve Backup にはいくつかの標準レポートがあり、一般的なバックアップおよびリストアアクティビティが表示されます。また、特定のニーズに合わせたカスタムレポートも作成できます。レポート フィルタを使用して、レポートに含めるバックアップメディアを選択できます。

たとえば、失敗したバックアップジョブのレポートを自動的に作成して電子メールで送信するように Arcserve Backup を設定する、またはアシュアードリカバリ（回復検証）で開始されたターゲットバックアップジョブのためのカスタマイズ レポートを作成することができます。

注: バックアップまたはリストア プロセス中のレポートの詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」を参照してください。

Arcserve Replication レポート

Arcserve Replication では、レプリケーションプロセスおよび同期プロセス時にレポートを生成できます。これらのレポートはマスタに格納、Arcserve Replication マネージャで表示するために送信、または指定したアドレスへ電子メールで送信できます。また、スクリプトの実行もトリガできます。

Arcserve Replication の生成レポートには以下のものがあります。

シナリオ レポート

シナリオ レポートには、同期化タスクからの統計情報（レプリケートされた変更データの量など）が含まれます。このレポートは、各同期化プロセスの最後に表示されるように設定できます。

このレポートは、すべてのプロセスが正常に実行されていること、および継続的に変更されているデータ量を確認するのに役立ちます。

相違点レポート

相違点レポートでは、マスタ サーバとレプリカ サーバ間の相違が比較され、レプリケーションプロセスの最後に各レプリカに対して生成されます。レプリケーションが中断された場合、すべての変更はレプリケーションが再開されるまでマスタ サーバにスプールされます。この中断の間、相違点レポートには変更されたデータ量が表示されます。相違点レポートはいつでも作成できます。

このレポートは、特定のイベントで変更されたデータ量を判断するのに役立ちます。

レプリケーションレポート

レプリケーション レポートには、レプリケーションプロセスが開始してからレプリケートされたデータの統計情報、および前回のレポート以降にレプリケートされたデータの統計情報が含まれます。データには、レプリケートされたバイト数、作成/更新/削除/および名前変更されたファイル数、およびエラーの数が含まれます。サマリ レポートまたは詳細レポートのいずれかを表示できます。

このレポートは、環境内でどの程度のデータが変更されているか、大まかに把握するのに役立ちます。

同期化レポート

同期化が終わると、転送されたファイルの一覧を表示するレポートが作成されて開かれます。このレポートには、削除あるいは変更されたファイルの総数、転送されたバイト数が含まれ、すべての関連ファイル名、ファイルパス、およびサイズが一覧表示されます。

このレポートは、環境内でのデータ変更とデータの増加をモニタリングおよび管理するのに役立ちます。

注: For more information about reports during the replication process, see the *Arcserve Replication and High Availability Administration Guide*.

第 6 章: トラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[統合されたトラブルシューティング](#) (P. 77)

[エラー/警告メッセージ](#) (P. 78)

統合されたトラブルシューティング

問題が検出されると、問題の確認、トラブルシューティングや解決に役立つメッセージが、Arcserve Backup によって生成されます。これらのメッセージはアクティビティログに含まれており、[ジョブステータス]-[アクティビティログ]タブから確認できます。アクティビティログでエラーまたは警告メッセージをダブルクリックすると、メッセージの詳細が表示されます。

エラー/警告メッセージ

生成されたメッセージは、問題によって発生する結果の重要度に基づいて、エラーメッセージと警告メッセージに分類されます。エラーメッセージは重要度が高く、通常は機能に関する問題を示します。このような問題は、ジョブを続行する前に解決する必要があります。警告メッセージは重要度が低く、注意する必要がある問題を示します。ただし、ジョブの続行は可能です。

生成されるメッセージは、以下のすべてまたは一部の情報から構成されます。

メッセージ

警告またはエラーの ID 番号（警告の場合は W、エラーの場合は E のプレフィックスが付きます）、対応するエラーコード、または Arcserve Backup により生成される簡単な説明を示します。エージェントのメッセージ番号は、AW（エージェント警告）または AE（エージェントエラー）のいずれかのプレフィックスが付きます。

モジュール

メッセージが生成されたシステム コンポーネントまたは領域を示します。

原因

メッセージの生成を引き起こしたと考えられる原因を示します。

アクション

実行できる問題解決策や手順を示します。

第7章：用語集

assured recovery

アシュアードリカバリ（回復検証）では、実稼働環境やレプリケートしたデータに影響を与えることなく、実際にアプリケーションを実行することで（データの変更も含む）、惨事復旧サーバを正確にテストできます。

データのリワインド

データのリワインドは、ファイルを破損前の時点（リワインドポイント）までリワインドするリカバリ方式です。

フェールオーバー

フェールオーバーは、マスタサーバ上で保護されているアプリケーションの障害を検出し、基本的にはデータも時間もまったく無駄にせずに指定されたレプリカサーバに（自動的にまたは手動で）切り替える機能です。

マスタサーバ

マスタサーバは、ユーザが実際にデータの変更（読み込みおよび書き込み）を行うアクティブサーバまたは実稼働サーバです。

レプリカサーバ

レプリカサーバはパッシブサーバです。マスタサーバからレプリケートされた変更を除き、このサーバではデータを変更することができません（読み取り専用）。

継続的なデータ保護

CDP（継続的なデータ保護）は、データをリカバリするための機能です。これは、たとえば、日次または週次のバックアップまたはスナップショットでキャプチャされたある特定の以前の状態にリカバリするだけでなく、任意の時点の状態にデータをリカバリできる機能です。

同期

同期化は、マスタサーバのデータをレプリカサーバのデータと同期させるプロセスです。